

第一回館山市議定会定例会會議錄（第四号）



一、昭和五十六年三月十三日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

一 番	神 田 守 隆	二 番	石 井 謀 謙
四 番	横 溝 功	五 番	福 原 勳
七 番	古 賀 礼 四 郎	八 番	石 井 昌 治
九 番	松 下 正 己	一 番	林 好 雄
一 二 番	栗 原 一 雄	一 三 番	近 藤 幸 太 郎
一 四 番	渡 辺 昭 夫	一 五 番	伊 藤 幸 太 郎
一 六 番	押 元 稔	一 七 番	黒 川 平 治
一 八 番	流 山 源 次 郎	一 九 番	石 井 輝 久
二 〇 番	石 井 武 敏	二 一 番	藤 田 益 治
二 三 番	菊 井 敏 博	二 四 番	和 田 一 郎
二 五 番	五十 嵐 昇	二 六 番	伊 賀 多 朗
二 七 番	石 井 正	二 八 番	安 澤 德 順
二 九 番	安 西 益 男	三 〇 番	山 口 康

一、欠席議員 一名

二 一 番 吉 田 勇 治 郎

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第四号）

昭和五十六年三月十三日午前十時開議

日程第一 議案第 十一号 昭和五十五年度館山市一般会計補正

日程第二 議案第十二号

予算（第六号）の専決処分の承認についで

千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

議案第十三号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十四号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十五号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十六号

館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十七号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十八号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十九号

字の区域及び名称の変更について

議案第二十号

字の区域及び名称の変更について

議案第二十一号

館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十二号

損害賠償の額の決定について

議案第二十三号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十四号

館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十五号

市道路線の認定について

議案第二十六号

昭和五十五年度館山市一般会計補正予算（第七号）

日程第四 議案第二十七号

昭和五十五年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）

議案第二十八号

昭和五十五年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

開

議 午前十時零分開議

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十三名、これより第一回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、議案第十一号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算の専決処分承認についてを議題といたします。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと

認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は承認することに決しました。

議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、議案第十二号千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議についてを議題といたします。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決すること、御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。

採 決

○議長(五十嵐 昇君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長(五十嵐 昇君) 日程第三、議案第十三号乃至議案第二十五号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長(五十嵐 昇君) これより質疑に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

(二〇番議員石井武敏君登壇)

○二〇番(石井武敏君) 私は一般議案のうちにすでに三点にわたり通告してございます。第一点は、十七号議案でございまして、市税条例の改正によりまして、収納に關しましては影響はないかどうかという問題でございします。第二点は、二十一号議案の改定

理由を具体的に説明をいただきたいということでありまして。三点目は二十四号議案の条例改正によりまして改正の妥当性についてでございます。

まず、第一点の十七号議案でございしますが、説明書を見ますとこの条例改正の理由としましては三点挙げられております。一つは、この制度は創設をされましてから三十年を経過してあるというところでございします。二番目の理由といたしましては、社会情勢並びに住民の税に対する意識も当時と変わってきたことを指摘しております。三点目の理由といたしましては、税額の増加に伴いまして報奨金の交付額が増額になってきてまして、財政を圧迫してきているということでありまして。

以上、三つの点が主な理由でございしますが、一につきましては創設をされてからかなりの年数がたっているようでございしますが、これは年数の問題ではなくて、それなりの効果が期待できるものであれば特に改正するに至らないと思ふものであります。

二番目の住民の税に対する意識の高揚、いわゆる自主納税という点でかなり進んできたという考えのようでございしますが、この点につきましては過去からの自主納税率がどのように上昇してきたかという計数を見なければ理解ができないと思ひます。自主納税の意識が進んできたとすれば、それは必ず徴収率という計数となつてあらわれてくるものであらうと考えられます。そこで、計数的に見ますとどのようになっていますか御質問いたします。

三点目の理由でございしますが、これは交付額が財政を圧迫してきているという理由でございしますが、昭和五十五年度は八百三十五万円でございます。この額は市民税、固定資産税の全徴収額の

○・八〇にあたるものであらうと思われのですが、この○・八〇という率はいつから採用されてきているのでしょうか御質問したいと思います。

また、現在の事務の簡素化という点で、報奨金の切り捨て額十円未満から百円未満にしようという事です。それから、実質的にはかなりの引き下げになるように思われます。私は、納税はもともと市民の義務でありますので、自主納税の機運が高まりまして、こうした報奨金制度が不要となれば最も喜ばしいことであらうと思われます。しかし、現在の段階で万一納税の意欲が減退していくというような影響はないかどうか、老後心ながら心配をしてお尋ねをしているものであります。税の徴収に関する当局の自信のほどをお聞かせ願いたいと思うものでございます。

次に、議案の第二十一号についてでございますが、この保育料のほかに入園料として四千円を徴収しようといういき方でございますが、まずこの改正につきましては改正の理由についてお尋ねするものでございます。

いままで無料で運営をしてきたものが有料になるのですから、それなりの理由があるらうかと思われま。

第一に考えられますことは、財政的な理由ではないかということです。そこで、財政的な理由の説明を求めます。

それから、説明書によりますと、参考欄に園児一人当たり年間の経費が載っております。これはいかに一人当たりの経費が年間かかるかという事を理解させるための参考であらうと思われま。すが、年々諸物価の高騰もあり、諸経費、維持費の高騰は当然考えられます。この参考資料に載っております年間の一人当たりの

諸経費でございますが、昭和五十五年度の推計で十三万三千円となっておりすけれども、前年度あるいは前々年度から比較しますとどういうような計数的な上昇があるのでしょうか。たとえれば昭和五十一年度あたりからかなり著しい変化のあった年度がわかれれば知りたいと思ひますので御説明願ひたいと思ひます。

また、一人当たりの年間の経費の内訳としてはどのようなものがあるのでしょうか、内容の説明を求めます。といひますのは、経費の中で――ひと口に経費といひましても、特に目立ってふえてきているものもあると思ひますし、あまりふえないものもあると思ひます。特に全体の中で占めている値上がりの主なものを経費の上昇の要因となっているようでございますので、その点の御説明をお願いします。

次に、入園料の算定の基準であります。説明書によりますと、普通交付税算定上ということ、普通交付税の算定の基準額と入園料が同額であるというような説明がされておりますが、この算定の基準になるものは何か。四千円の入園料が妥当な額であるかどうかを理解するために、その根拠となる基準をお示しいただきたいと思ひます。

また、説明書によりますと、この徴収によりまして各幼稚園の実態に即した設備内容の計画的な整備充実を図り、その活用と改善に努めたいとありますが、この入園料の徴収によりますと、財政的に考えていきますと、年間どの程度の収入増が見込まれるのでしょうか。そして説明にありますように、幼稚園の実態に即した設備内容の整備とは具体的にどのような改善が期待できますか。以上、御質問します。

次に、二十四号議案でございます。これは現行条例が改正になる理由の説明を求めます。

説明書の別表でいきますと、一般家庭のくみ取り料が従量制になることによりまして、旅館、映画館、病院、工場、事務所等々、あるいはまた洗浄式の便所のくみ取りと個人のくみ取りが画一的に収集される、収集額が画一的になるわけでございます。これにつきましては一リットルが六円四十銭のものが十リットル六十四円ということで額も並行しているわけでございます。単位を一リットルから十リットルに変えた理由について説明をいただきたいと思ひます。先の通告質問の中で多少の質疑がありましてあらう理解はしておりますが、念のために十リットルとして変えた理由を御説明願ひたいと思ひます。

ここで考えられますことは、いままでのくみ取り方式を人頭制から従量制に改正をしていくということは、さまざまな考え方が出てくるわけでございますが、特に先々さまざまな質疑の中からこの従量制にすることが最も理想に近い、すなわち一人当たりの市民の平等性という点から見ると従量制のほうがはるかに正確性をもっているという点で一步前進をしているということとらえられていると思ひます。私もそのとおりと思ひますが、この十リットルを六十四円とした額の決め方については妥当であつたかどうか今回の質疑を通して私は理解をしたいと思ひます。

今回の改定案として提出されるまでにさまざまな角度からおそらく論議があつたと思ひます。これは直接市民負担という形になる料金でございますので、慎重の上に慎重を期して研究、討議をされまして、今回の金額に落ちついたのではないかと思われます

が、もし差しつかえなければどの程度の範囲からこの六十四円という額に上げられたか参考にお尋ねをしたいと思ひわけでございます。

以上、御質問をいたします。御答弁によりまして再質問いたしたいと思ひます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

議案第十七号につきましては、三点について御質問がございましたが、一、二点につきましては御一緒に御答弁をしたいと思ひます。

前納報奨金制度が創設されました当初の本市の徴収率は、昭和二十五年度が六〇・九八％、昭和二十六年は六二・四％という極めて低率でございました。現在は住民の自主納税意識も高まりまして、納税組合、口座振替、郵便振替等の利用者も多くなりまして、最近の数年は九七％程度の徴収率となっております。

第三点でございますが、昭和五十五年度の交付額は八百三十五万円でございます。これを条例改正案の率で計算いたしますと五百二十二万円となり、約三百十三万円の減となります。市とすればやはり大きな額といえると思ひます。

なお、交付率でございますが、創設当初は百分の一、昭和五十五年に百分の〇・八と改正いたしましたして現在に至っております。

また、報奨金額が百円に満たないものについては不交付と改定しようとするという点でございますが、該当者は前納者七千五百人のうち七百人くらいと推定されまして、額にいたしまして約三

万五千円程度で、報獎金総額の〇・六でございしますので、あまり影響はないと考えます。

今回の改正によります市税収納への影響でございしますが、前納者が若干減少し、年度前半は徴収率は若干低下が考えられますが、年度後半は正常に復し、市税の徴収率は影響はないものと考えております。

市といたしましても、今後あらゆる機会をとらえて、自主納税の意識を高めるために努力をいたしてまいりたいと考えております。

議案第二十一号の改定の理由を具体的に説明していただきたいという御質問でございますが、幼稚園を運営するにあたりまして建築費を除く園児一人当たり必要経費の推移を見ますと、五十一年度の経費は一人当たり十萬八千円でございました。内容といたしましては人件費十萬円、その他の物件費として八千円。五十二年度は一人当たり十萬一千円、内訳といたしましては人件費九萬二千円、その他の物件費九千円。五十三年度におきましては一人当たり十一萬一千円、その内訳といたしましては人件費十萬一千円、その他物件費一萬円。五十四年度は一人当たり十一萬九千円内訳といたしましては人件費は十萬八千円、その他の物件費一萬一千円、五十五年度は一人当たり十三萬三千円でございまして、内訳として人件費は十二萬円、その他の物件費は一萬三千円となっております。五十一年度の一人当たりの経費と比較いたしますと、人件費において二萬円、その他の物件費で五千円、計二萬五千円と経費の上昇をみている現状でございます。

こうした現状と同時に、一方幼児の教育内容の充実が期待され

ているわけでございしますので、これが施設整備のため五十六年度新入園児より入園料として四千円を徴収し、各幼稚園の設備整備に充てることといたしました。これを計画的に実施していきたいというふうに考えているわけでございます。

そういうことから、昭和五十六年度におきましては、那古、北条、神戸、富崎、豊原、館野、九重の七つの幼稚園の野外用園具の整備を計画いたしました。その費用として約二百七十万を予定いたしております。その財源といたしまして、入園料二百五十八万円を見込んであるわけでございます。

この入園料算定の基準でございしますが、交付税の算定にあたりましては、その市の基準財政需要額から基準財政収入額を差し引いたものが交付税の対象になるわけでございますけれども、その基準財政収入額の中で、幼稚園におきましては園児一人当たり四千円の入園料を徴収しているものとして計算されるわけでございます。そういう意味で四千円の入園料を徴収することとしたわけでございます。

なお、入園料の総額は、先ほど申し上げましたように二百五十八万円を見込んであるわけでございます。

議案第二十四号についての御質問でございしますが、し尿収集手料は実際のくみ取り量に応じた料金を徴収することがより適切でございすし、また住民の人員異動に伴う手続きの繁雑さも解消されることもございますので、すべて従量制に移行しようとするものでございます。

現在の計量器は十八リットル刻みの目盛りでございまして、リットル単位での読み取りが困難でございす。しかし、近隣の市



町村を見ますと、十八リットルあるいは三十六リットル当たりの料金を定めているのが現状でございます。今回の改正によりまして計量器を十八リットルから十リットル刻みのものに切り替えをいたしまして読み取りやすくいたしました。それに合わせて料金も十リットル当たり六十四円に改め、誤差のないようにしたいと思っております。

なお、十リットル当たり六十四円に決めましたのは、従来一リットル当たり六円四十銭をいただいていたわけでございますが、今回十リットル単位を目盛りに改めましたので、十リットル当たり六十四円というふうに決めたわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁をいただきましてあらうら了解をいたしましたんですが、何点か追って質問いたしたいと思っております。

第一点の納税に關しましては、自主納税の点からみまして、年々そういう意識が高揚してきているというふうに計数的にも見られるわけでございますが、ただいまの御答弁によりますと徴収の具体的方法の中に口座振込、郵便等々という言葉も出てまいりましたが、これは口座振込、郵便振込、その他組合、団体、いろいろあると思えますけれども、個人で納入している人々と団体で納入している人との割合は現在どうなっているんでしょいか。

私も、納税意識が高まってくればこうした報奨金は要らなくなるであろうというふうな考え方に立っております。ただそれがいままそれをやってどうなのかということなのであります。納税意識の高揚ということは、計数的に見ますと徐々に上がってきてはいるようでありますが、もっとも当局のほうではこの程度の改定に

よつては十分納税側として納得のいく額だというようにその事を考えておられるようでございますけれども、特に納税意識の高揚という点では何か別の方法をとってカバーしていくとかということとは全く考えないわけでしょいか。その点ひとつお聞きしたいと思います。

それから、第二点目の幼稚園の入園料の問題でございますけれども、これはいまの御説明によりますと、四千円の決め方というのは国の基準であるというように私は受け取ります。いろんな算出方法があるようでございますが、それはある程度国のほうで算出した額であるように思われますので、この国の決め方というものがある程度所得の差、いわゆる入園する人のいろんな所得の差というものがあろうと思つてすけれども、そういったことに關しましてはどういう配慮が具体的にとられるんでしょいか。

それと、今回この入園料を初めて取るわけですが、すでに入園料を取っている市もあるかと思つてます。幾つかの市と比較しましてこの入園料は妥当であるかどうかということを知りたいと思つてますので、もしも参考になる資料がお手元にありましたら、ほかの市との比較を御説明願いたいと思つてます。

それから、ただいまの御答弁によりますと、今回入園料をいただきまして見込まれます額、この金額は市内七カ所の幼稚園の屋外における園具を整備していくんだというように説明がありました。これは遊具の——一応、どのようなものをそろえるかという基準もあろうかと思つてますが、特に野外の遊具で設置基準のようなのがあるまして、これとこれとこれは最低設置しなさいという

ようなものがあるのではないかと思いますが、いま挙げた七カ所の幼稚園ではいままでそういうものが設置されてなかったのではないかと、そういうように受け取るんですが、具体的にはどのようなものを設置しようということなのでしょう、御説明を願いたいと思います。

それから、三点目のくみ取りの従量制についてでございますけれども、近隣市町村におきましては、先ほどの説明では十八リットル、三十六リットルという従量制のメーターのとおり方ですけれども、十八リットルというのはないわけです。それで参考になる一十リットルとていれば参考になりますけれども、十八リットルの従量制をとっているところで十八リットル幾らでとっているか。他のいまだで従量制をやっている近隣の市町村、これも一つの基準になるのではないかと思います、額の決め方としまして。そこでお尋ねをしているわけです。十八リットルの従量制とていっているところは、たとえば幾らで徴収しているんでしょうか。

以上、お願いします。

○総務部長（石田雄一君） 私の方から十七号議案につきましての答弁を申し上げます。

納税意識の高揚ということで今回の改正についての御懸念があるようにございますけれども、憲法の三十条にございます国民の納税義務というように観点から、最近におきます各市町村の納税についての期待というものはかなり大きいものがあるわけでございます。

それで、今回の前納報奨金制度の問題につきましては、県下二

十六市の都市税務協議会の中での研究テーマにもなっておりまして、実は五十五年度から千葉市が前納報奨金の全廃に踏み切ったわけでございまして、なお五団体がそれにならっての研究を現在進めておる状況でございます。

徴収率等いろいろと問題がございしますが、ちなみに本市が五十一年度交付率百分の一から百分の〇・八に改正をいたしました時点の状況を参考までに申し上げますと、市民税でまいりますと、八月の時点、対前年度の比較でございますけれども、一・一八の増でございます。固定、都市計画税につきましては〇・三の増、それから十二月、三月になりました数字でございますが、市民税が〇・一七、〇・二五、固定、都市計画税につきましては一・三五から二・〇七ということで、徴収率的にはダウンになっております。

それから、全廃いたしました千葉市の関係でございますけれども、当初八月時点ではマイナス三・六という状況でございましたけれども、最終的に一月の時点ではマイナス〇・八と全廃をした年度の最終でややダウンしておりますけれども、それほど影響をみないというのが状況であるようでございます。

それから、質問の個人で納入している場合、団体で納入している場合との割合でございますけれども、五十四年度におきます数字を申し上げますと、組合を通じてのものが四〇・八五％、それから口座振替でございますけれども八・一五％、なお郵便によるものでございますけれども三・一八％。これらによるものが合わせまして五二・一九％、したがって残りの分が戸別徴収に係るものでございます。

○教育長（安田豊作君） 二十一号議案の再質問についてお答えいたします。

幼稚園の入園料の徴収の額四千円については、これは国の基準であります。実は国の基準というのは五十五年度までは三千二百円であったわけです。五十六年度から四千円にするというような増額の通知を受けておるわけでございます。

そういう状況の中で、県下の各市はどうかといいますと、五十五年度の状況を申し上げますと、公立幼稚園設置市は十九市ありますが、うち入園料を徴収しているのは九市、そして入園料として徴収している平均額は二千四百円であります。野田市が最高で四千円徴収しております。

なお、来年度に向かいます、未徴収市でありますところの市原市とか習志野市、八千代市というような各市から徴収についての照会がありまして、市川市は値上げのための照会がありました。こういうところで徴収をはじめさらに増額を考えているということが予測される、これが県下の状況でございます。

それから、入園料は所得によって段階づけはできないかというような御質問でございますが、四千円という額でございますので段階は設けないうで一律に考えております。ただし低所得者については保育料等減免規則を制定されておりますので、その中で処置したい。要するに生活保護家庭のようなどころは入園料無料というような形ができるんじゃないかと、こう考えております。

それから、園具を整備するということが、その設置の基準と各園の状況はどうかということでございますが、幼稚園には幼稚園の設置基準というようなものがあります。この設置基準につい

て載せてあるものは、机、腰かけのようなものは別として、遊具としては滑り台、ブランコ、砂遊び場、こういうことだけでございます。この三つは市内の幼稚園全部設置されております。設置されてなければ許可にならないわけです。

ただ、そういう中で、最近子供たちの体位とか教育上、大型のものが要求されてきているわけがあります。いままでの幼稚園のいわゆる配当による備品購入費では手が出せないようなものが要求されております。子供の要望から見れば動くものとか、あるいは連続して運動できるものということで、どうしても金額が上がるわけでございます。そうしたものをこの際入園料の収入によって充てていきたい。

七園にしたのは、十園のうち三園は建築その他でまだ運動場、その他がごたごたしておりますので、抜いて、七園について計画的に進めたい。今後その三園は、設置できる段階になったらあとからやるというようなことで、たとえば例を挙げますと、アスレチックというような連続して運動するものなんかは五十万くらいするわけです。あるいはオールラウンドジムというような、いわゆるジャングルジムの中のあれですが、これでも二十二、三万するというような額のものがいま考えられておりますが、これは今後承認いただいたあとで、実施の場合にはさらに検討していく、こう考えております。

○民生部長（鈴木 力君） 議案第二十四号に関連いたしましたのお尋ねの、近隣市町村のし尿収集手数料の徴収基準の単位と料金単位でございますけれども、鋸南、富山、富浦の三町で構成の鋸南地区環境衛生組合におきましては、単位を十八リットルとして

おりまして、単価は百五十円でございます。それから白浜、千倉丸山、和田の四町構成の朝夷衛生組合におきましては、同じように十八リットル単位でございまして、料金につきましては百十円でございます。それから鴨川、天津小湊の長狭地区衛生組合におきましては、単位が十八リットルでございまして、単価が百十円でございます。それから、なお勝浦市におきましては、三十六リッター単位としておりまして、単価が二百円でございます。

〇二〇番（石井武敏君） 最初の総務部長の御答弁の中で、組合で納めているものが四〇・八五％ということで御答弁ございましたけれども、過去におけるこうした報償金の減額のいきさつ、その当時はあまり影響がなくて、逆に増収をしていたこともあったというように御説明であります。今回これをたとえば実施の段階になりましたら、こうした納税に一生懸命にやってきました組合に関しましては、大変抜き打ち的になりませんか。そのへんはどのように考えておりますか。

それから、ただいま遊具につきまして教育長のほうから御説明がありました。大変具体的にあつたわけでありますが、私は遊具に関しましては単なる遊び道具というふうには考えられないわけがあります。現在、小、中学校、いわゆる不良化、非行化というものがわれわれの年代では想像できないような進展をきているわけでございます。年齢層が低くなつてきているわけでございます。ですから幼児期における教育というものが非常に重要ではないかと思ひます。

いまの御答弁では、設置される遊具の基準として砂場、滑り台、ブランコしか載っていない。これは私自身が幼稚園当時あったも

のそのままでございます。しかし、いまの子供たちが要求しているものとは違つたもの、進んだものを要求していると思ひます。答弁の中にありましたけれども、最近の遊具の要求、幼児の要求というものが変わつてきていることが答弁の中からもかえりわけでございます。たとえば大型のものが要求されている、特に連続して動くものというように、私たちの時代とかなり変わつてきているわけでございます。ですから、私はこういった幼児教育をからめてやはり幼児に与える遊具というものをもう一歩研究してもらいたいと思ひわけでございます。

遊具というものは、大型の遊具を製造販売する会社がつくり出すんではなくて、逆に教育という立場からこういうものがいまの子供には必要なんだ、たとえば昔から三つ子の魂百までといわれますけれども、非常に感受性の強い大事な時期に与えるものというのには慎重に考えて研究すべきであらうと私は常々思っているわけです。

そこで、各幼稚園に配備されます遊具を見ましても、これは各幼稚園、幼稚園で大分違つているように感じられてならないんです。この幼稚園は幼稚園でこういった遊具が、そういった地域性ももちろん必要でありまして、うけれども、そういったものを総括して検討して、幼児教育の中で考えていく場所は一体どこにあるんでしょいか。いままでそういった場所がなければひつくりていただきたいと思ひます。

そして、特に最近の遊具の中には、たとえば子供の創造性を養つていくキングブロックといつて、一つのものを、いろんな形のもの、組み合わせで自分の好きなものをつくつていくというよ

りなもの、あるいはゲームボックスといって、穴の中をくぐって、そういうボックスを組み合わせていろんなことができる、あるいは先ほど教育長の説明にありましたが、ジャングルジムといわれたものもいま変型して進んできております。いままでのような真四角のようなものは求められなくなってきました。逆に変型した滑り台と組み合わせたり、あるいは回転ジャングルジムとか、飛行機ジム、機関車ジムとか、そういうように非常に変わってきているわけです。今回それらを洗い直すいい機会だと思います。

幼児教育ということにしまして、特に大事な幼児期、感受性の強い、見る、聞く、さわるという中から自然に情操教育をしていくという大事な幼児教育についてぜひもう一度この際洗い直していただきたい、そういうふうに考えるわけがあります。特に野外の遊具が不足であった園舎にしましては検討をしていただきたい。これを要望いたします。

○総務部長（石田雄一君） 最初の質問についての回答でございますけれども、今回の十七号議案の内容は納付前納付、これは個人の市民税、いわゆる個人納税義務者に対する改定であるわけでございます。組合とおっしゃいますのは、納税組合の関係での御懸念だと思っておりますが、今回の改正とは別に納税組合の奨励金がございまして、これについてはすでに昭和五十四年でございますけれども、二千八百八十五万円の納税報償金が出ていますのでございます。これは一切今回の改定とは別の問題でございます。あくまでも前納報奨金に係る改定であるというように御理解いただきたいと思います。

○二〇番（石井武敏君） 教育長にお答えを願いたいと思います。先ほど私が申しました幼児教育につきまして所感を述べていただきたいと思っております。

先ほどそういった幼児教育につきまして、たとえば遊具を一つとりましても、各園舎に全部お金だけ渡して任せていくやり方がいままでも多かったように思いますが、これはきちんとした場所の研究する必要があるんじゃないかと思うんです。

それから、遊具の――特に七園舎という答弁がありましたけれども、これもぜひとも十園舎すべてに整備をしていただきたいと思いますが、そのへんの教育長さんの所感を最後にお聞きいたしたいと思っております。

○教育長（安田豊作君） いま遊具の設置の仕方についての御意見がありがたくお聞きいたしました。

実は、いま幼稚園の建築を進めていきますけれども、いままでの幼稚園というのは小学校の空いた部屋を幼稚園にするという形でなされております。したがって園舎そのもののつくりと同時に運動場といいますが、遊び場といいますが、そういうものとのつながりのようなものはいままでも考えられていなかった、このへん建築の中で十分考えていまして進めております。

と同時に、その遊び場を、いまお話のようなより効果的な運動場にするためにどうしたらいいかという問題で、実は本年教育問題研究委員会というものを御承認いただいて、補助金をいただいで研究しております。その幼稚園部会で、子供たちによりダイナミックな運動をさせるための運動施設はどういうものがあるかというところで研究してもらって、この間答申をもらったわけです。

そのときも意見言ったわけなんです、必ずしも満足できるものばかりではなくてさらに続けていく必要があるんじゃないか。そういう機關を通してさらに研究を進めたいということ。

と同時に、いいものは他の園にも必要ではないか、御意見ごもつともございまして、各園の平均した遊具と地域性というものはうまく考えられるべきと思います。そういう点でここにも各園のいままでの遊具の一覧表をとってあります。学務体育課を中心にして、その統計といまのような答申と、あるいは各園からの要望というよりなものをミックスして、御意見にあったような方向で遊具の設置を計画的に進めていく、こういうふうに考えております。

○二〇番（石井武敏君） 質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 通告してある各議案について質問いたします。

議案の第十三号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第十四号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねいたします。

市長、助役、収入役、議長、副議長、議員の給与等について報酬審議会の審議にかけておるわけですが、その審議経過について、どのような意見が出て、どのような結論になっているのか御説明を願いたいと思います。

また、審議委員は一号委員五人と二号委員五人と規定されておるわけですが、委員の委嘱は市長の権限となっているわけであり、委員選任にあたって二号委員の学識経験というだけでは大変抽象的であるわけで、特に報酬審議会の委員としてこういう人という市長のお考えがあるのかどうか。あるとすればその選任の考え方についてお聞かせ願いたいと思います。

議案の第十五号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例についてであります、教育長の給料は収入役と同じというふうに金額的にもなっておるわけであり、教育長の給与は収入役と同じにすべきであるという、こういう考え方であるのか。だとすれば近隣の市町村はどういうような状況にあるのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、議案第二十一号館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例についてであります。館山の幼稚園は九だというよりな時代もあったわけであり、半澤市政になってから保育料が大変高くなった、こういう声を聞くわけであり、この上さらに入園料を取るといふことで、なぜもこう幼稚園がねらい打ちされるのかという感がするわけであり、

先ほど来質疑もされておりますので、重複しないようにして質問をしてみたいと思っておりますが、先ほどの石井議員に対する答弁の中で、遊具の整備に二百七十万を予定しておる、その財源として入園料の二百五十八万を使うというふうな答弁であったろりと思っております。

幼稚園の教育内容を充実させることは当然しなければならぬことだらうというふうに思うわけですが、また同時にそ

した幼稚園の教育条件の整備、これは財源があるうがなからうが当然行政側の責任としてやらなければならないことだというふうに思うわけであります。そういう点からみましたときに、基本的な考え方として遊具の整備これは入園料を充てていくというふうな考え方で今後進む、そういうことだとすればそれなりの問題もあるうかと思ひますので、その点をお聞かせ願ひたいと思ひます。

それと、先ほどの御説明の中で、県内十九市で公立の幼稚園がある、市立の幼稚園があつて入園料とつてゐるのが九市であるというお話でありましたけれども、県の市立の幼稚園というのを見ますと、私の聞いている範囲では大変館山市は幼稚園が整備されてゐる、あるいは安房郡が特に整備が進んでゐるのではなからうかというような、例外的なところもありますけれども、そういうような印象を持つてゐるわけであります。そういう点から見ますと、安房郡全体の中でこうした幼稚園の入園料を實際徴収してゐるところがあるのか。そしてまた幼稚園の保育料、これが館山市は大変高いのではなからうかというような危惧を持つてゐるわけでありますので、幼稚園の保育料、これが安房郡内の他の市町村と比べてどういうふうになつてゐるのかお聞かせ願ひたいと思ひわけであります。

次に、議案第二十四号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例についてであります。

これも先ほど来石井議員の質疑があつたわけであります。十二月議会においても、従量制の移行については、十分なる事前の条件整備なしに実施すると、混乱を招きかねない、こういうことで私も進言申し上げたわけであります。いよいよ実施すべく条例の

改正案が出てきたわけでありますが、本当に心配なのかというような危惧を抱くのは私一人ではないと思ひます。昨日の流山議員もこうした問題について質問をしたところでございます。

確かに、くみ取り料はその量に応じて料金をはらうというのはそれなりの合理性を持つてゐる万人の納得のできる場所であるうかと思ひます。しかしながら、現実に従量制に移行することになると幾つかの問題点も同時に指摘しなければなりません。

その第一点は、やはり計量というものの対する信頼の問題であります。量がはたして本当に正しく計れるのかどうか。事実坂道などでの車を止めて計量するためには計れないということで、係員が便槽の大きさを見て経験的な判断をする、むしろそのほうが妥当な数値が出るんだ、こういうようなお話を聞いているわけですから、計量に係員の主観が介在するといふ、こういう余地が大変多いといふことであります。客観性という点で信頼に足る正確な計量、これをはたして保証できるというところで自信を持つてお答えできるのか。そうしたトラブルがあれば、当局は責任を負ふといふ自信があるのかお聞かせ願ひたいと思ひます。

第二点には、従量制になるといふことで、現在は月一回収集といふことで体制になつてゐるわけでありす。これは二回目、三回目という収集になればそれ相応に料金も高くもりますよといふような規定が現行ではあるわけでありす。今度は従量制にするわけですから、たとえば月一回収集という方が月二回収集してもらう、月二回収集してもらつても量そのものが変わらなければ料金は同じだといふことになるわけですから、市民の側から見ればいつでもきれいにしてもらいたいといふのは人情でありますか

ら、しかも料金的に変わらないということになれば、たびたびやってもらったほうがいいということになりかねないわけでありま  
す。私は近隣市町村もすべて従量制を採用しているのだからとい  
り理由が当局の説明にあるわけでありすけれども、従量制のと  
ころでは館山のように毎月一回という計画収集の体制ができてい  
ないというように伺っているわけでありす。計画収集体制が館  
山で確立してできたというのも人頭割りの料金体系によるところ  
が大変大きかったと思うわけでありす。こういう点から月一回  
の定期的な計画収集体制というものがぐずれていくという危険は  
ないのかどうか。その点についての当局のお答えをお聞かせ願  
いたいと思うわけでありす。

第三は、市民の受け入れ体制といいますが、量が毎月毎月変動  
するという大きな原因の一つに挙げられている問題が、便槽それ  
自体が大変不備である。いままでなら雨水が多少入っても人頭割  
りでありすから料金は変わらなかった。したがって、便槽の修  
理や改善に市民があまり関心を示さなかったというところもある  
と思ひます。ところが、これからは便槽に流れ込んだ雨水も料金を  
払わなければならぬということになるわけでありすから、市  
民の受ける当初のショックはかなりあるんではないかと思ひわけ  
でありす。この点について広報等でよく周知しておくというこ  
とはもちろんでありすけれども、これがトラブルやあるいは誤  
解の原因にもなりかねないと思ひわけでありす。この対策につ  
いてどのように考えておるかお聞かせ願ひたいと思ひます。  
また、数はそれほどないと思ひますけれども、共同使用のトイ  
レなどもあると思ひますが、そうした場合の料金負担、こういっ

たものが異なるんじゃないか。うまく話し合いがつけばよろしい  
わけですが、こうした問題についての配慮はされておるの  
か。

第四番目は、いろいろトラブルが起きないように対処しなければ  
ならないと思ひますが、そうしたトラブルの直接矢面に立た  
されるのは収集の職員であることは間違いないと思ひます。それ  
だけに現場であればこそ予測されるトラブルについてもまたそれ  
を解決をする現場の知恵というものもあるうかと思ひます。この  
問題では保全公社の労働組合と、従業員と十分話し合いを煮つめ  
て対策を検討されたかどうか。この点についてお聞かせ願ひたい  
と思ひわけでありす。

次に、議案第二十五号市道路線の認定についてでありす。

昨年の三月の議会でもこの問題について御質問したところ、市  
道への認定基準として四点ほど市長さんは答弁をしているわけ  
でありす。その一つは幅員が四メートル以上あること、また道路  
の終点あるいは始点どちらか一方が少なくとも幅員五メートル以  
上の国道、県道、あるいは市道等公道に接していること、三つ目  
に公共施設などがあること、四つ目に家屋がつながっており、ま  
た集落を結ぶなど利用度が高い幹線道路であること、という四つ  
の指標というべきものを示されております。

具体的に、市道路線の認定にあたって出てきております各路線  
を見ますと、一と二の幅員四メートル以上あるいは五メートル以  
上の公道に接しているということ、こうした点についてはそれぞ  
れ説明書でわかるわけでありすが、三ないし四という公共施設  
あるいは家屋はつながって、また集落を結ぶなど、利用度が高い



という点から見るとどうなのか御説明をいただきたい、こういうふうに思ひわけであります。

以上、答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第十三号、十四号、十五号についての御質問でございます。御指摘のように館山市特別職報酬審議会は、審議会条例第四条第二項第二号に基づく委員五名と一号委員で構成されているわけでありますが、第二号委員につきまして何か基準をもって市長は任命しているのかという御質問でございますけれども、やはり人格知識経験者ということでございます。特に経済的な知識をお持ちで経済的な情報等に明るい方を考えて御任命をいたしております。もちろん一号委員は市内の公共団体等を代表する方ということで各団体から御推薦いただいて、計十名で構成されているわけでございます。

今回の報酬等の引き上げにつきまして御審議をいただきました審議内容につきましては、市はこれに御諮問申し上げたというところでございますので、その審議内容につきましては答弁を差し控えさせていただきます。

それから、収入役、教育長の給料でございますが、館山市の場合は昭和四十五年から同額でございましたが、五十三年六月の改正で教育長には諸手当が付いているという関係から、収入役より一万円低額で定めました。その後教育長の給与の定め方につきまして県の指導もございまして、昭和五十五年四月一日に教育長の手当を廃止いたしましたので、その際収入役と同額に定めただけでござい

ます。

県下の状況でございますが、同額と定めている市は十四市、収入役の給料のほうが高い市が九市、教育長のほうが高い市が三市でございました。これはそれぞれ各市の状況によって異なるもので、原則はないというふうに考えます。

幼稚園の入園料に関する御質問でございますが、先ほど石井武敏議員の御質問にお答えをいたしましたような考え方で今回四千人を徴収することにしたわけでございますが、四千人という金額は国の金額でございまして、普通交付税を算定いたします場合に基準財政需要額と基準財政収入額の差額が基準になるわけでございますけれども、その際に先ほど申し上げましたように四千人の入園料をとっているものとして基準財政収入額が算定をされますので、これをとっておりませんとそれだけの交付税のほうの算定で損をする、歳入が減少するという形になるわけでありまして、それで基準の四千人を決めたわけでございます。

もちろん、これを取る、取らないにかかわらず幼稚園の施設、設備の充実が市の仕事としてやらなければならぬわけでございますので、従来もやってまいりましたけれども、今回これをいただくことによってさらに充実をいたしたいというふうに考えているわけでございます。

また、神田議員御指摘のように館山市及び安房郡市は幼稚園が整備されておりまして、それだけ幼稚園に対する支出の占める割合が多いわけでございます。千葉市のようにあんなに大きな市でも公立幼稚園は一園しかないというふうに伺っております。そういう意味で財政上に占める比率から言って、たとえば千葉市によ

りな場合は入園料を取らなくてもその大きな負担にならないといふふうに、いろいろ市の財政状況が違ふといふふうに考えられまゝすので、館山市の場合は四千円をいただきたい、そういうことでございます。

し尿収集手数料の従量制の切りかえについての御質問でございます。この切りかえにあたりましてはいろいろの問題点が予想されるわけでございますが、しかし基本的には先ほども申し上げましたように従量制のほうが合理的だ、そういう考え方から今後いろいろの問題点が予想されますけれども、あえてそうした基本的な考え方によって収集手数料を従量制に切りかえたわけでございます。それに対する対応策はいろいろ考えているわけでございまして、たとえば計量に対する信頼という問題につきましても、すでに十八リットルないし三十六リットルで実施をいたしている町村におきましてもその大きな問題はないように伺っております。特に館山市の場合は、さらにこの目盛りを十リットル単位というようにいたしますわけで、より正確が期せられるといふふうに考えております。

また、月一回の収集が原則でございますが、二回、三回という要求があるのではなからうかということでございますけれども、二回ないし三回というような御要求がありました場合には、やはり特別に加算金をいただくようなことも考えられるといふふうに考えております。

また、市民に対するPRでございますが、これも二月、三月の料金徴収等にあたりまして切りかえを各戸にPRをいたして、市民への周知を図っていききたいといふふうに考えております。

また、こうしたトラブルが起きましたときに、その矢面に立たされるのは従業員であることも事実だろうと思ひますけれども、そういう点につきましては何回か従事する職員と話し合いを重ねまして、その徹底を図ってきたところでございます。切りかえ当初はどうしても問題が起ころうかと思ひますけれども、従事する職員及び市の衛生課におきましても誠意をもってこの解決に努力をいたしたい、そういうふうに考えております。

最後に、議案第二十五号についてでございますが、今回認定をお願いいたします各路線について申し上げますと、金堀一号線につきましても市街地内の生活道路でございます、土地の寄付を受けましてそして市道として認定するものでございます。金堀二号線も同様でございます。蘭南線は五十五年度で道路の改良をいたしまして、整備をいたしました道路でございます。それから安布里沢ノ町線も市のほ場整備により築造した幹線道路でございます。竹原山王線は五十五年度道路改良工事をいたしまして整備した道路でございます、奥はほ場整備でつくられた道路につながっているわけでございます。いずれもこの五路線は市で考えております市道の認定条件に合致しているものでございます。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君）報酬審の審議経過について御答弁をいただけなかったわけでございますけれども、報酬審の審議の結論としては全員一致で諮問に対してそれを是とする答申であったということと理解してよろしいのか。あるいは少数意見等があったや否か。こういったものは出されていないのか。

それと、経済的な知識に明るい、そういう方が特にということ

で選んでおるといふ、これは市長の確かにいろんな考え方もありと思ひますが、とかく報酬審というとお手盛りをするときの隠れみのに利用されているという批判があるようでございますので、人選にあつては慎重を期して、やはり公正な立場でということ、また市民の合意が得られるようなそうした判断に立てるといふような方を特に選んでいただきたいといふように思ひわけであります。個々の委員がどういふ問題ではありませぬ。

報酬審ですけれども、これまで報酬審議会がつくられてから、諮問した給与等の改定案に対して、否決といひますか、その案ではよくない、是としないといふことで、これが否定をされたり、あるいは修正をされたりといふようなことがかつてどれほどあったのか。このことについてお聞かせください。

それと、幼稚園の問題であります。安房郡内では、たとえば朝夷教育委員会の千倉、丸山、和田ですか、あるいは鴨川市だとか各町村の御意見を聞いたところ、幼稚園の保育料は千五百円、入園料は取っていない、また取らない、こういうふうにお話を聞いておるんですけれども、安房郡内では幼稚園の保育料千五百円、鴨川市が千八百円ですか、といふふうに聞いておりますけれども、御確認願ひたいと思ひます。

しかも、鴨川市を見ますと、幼稚園は小学校ごとと十園、館山市も十園でよく整備されているわけです。父母の負担もそういう点で少ないといふことになりまして、何か館山だけ安房郡内の中で高くするんじゃないか。そういうことで納得しかねるわけです。安房郡内の各市町村の幼稚園の保育料が幾らで、入園料は取っていない、こういうことについての調査をしているかどうかお聞か

せ願ひたいと思ひます。

それから、議案の第二十四号ですが、先ほど従量制になれば月二回、三回、ただし量だけになるんだから二回、三回ということになるんじゃないか、こういうふうなお話に対して二回目、三回目は加算金というふうな市長さんのお話をなすけれども、それは議案の説明資料を見ますと大分内容が違ひわけです。現行では「一般家庭の収集回数は一ヶ月一回を標準とし、一回を越える分一回につき一ヶ月当りの規定料金の二分の一を加算する。」といふ加算の規定がある。それを今度従量制にするからこれは要らないといふのが従量制にすることの一つの趣旨なわけです。そうすると、二回目、三回目加算金というお考えだと本当に十分審議をして検討されたのかという心配をするわけなんです。さっきの答弁は納得できないのでちゃんとしたいだきたいと思ひます。

それから、切りかえのPRは十分やっていかないと、とてもじゃないけれどもできないと思ひますけれども、四月実施ということについて私は大変危惧を持っているわけです。まだ広報の中ではこういった話も出ていませぬし、切りかえのときにそれぞれお話をすることだけでは混乱が起きるんではなかるうかと、いふふうに思っているわけです。これまで便槽に雨水等が入つた、そういうことでのトラブル——便槽の不備ですね、こういうものがどれくらいあったのか。今後そういうものがどの程度予想されるというふうにつかんでおられるのかお聞かせ願ひたいと思ひます。

それから、労働組合あるいは従業員と話し合ひをしておるといふことです。さらに十分納得のいくところで話し合ひを煮つ

めていただいて、それぞれ具体的な問題として対処していただきたいというふうに思うわけであります。

路線の認定については了解をいたします。

○市長（半澤良一君） ただいまの私の答弁で誤解を招くといけませんので、特にし尿収集の回数について付け加えたいと思います。月一回が従来から原則でございまして、これが大変定着してきておりますので、従量制に変わってもそのままでいけるんじゃないかという大体見通しを持っているわけで、月一回というのとていけるんじゃないかという見通しを持っているわけであります。

神田議員の御指摘のように、きれいにしたいということで月二回も三回もという方がたくさん出てまいりまして、この月一回収集という体制ができなくなった場合に、特別加算金をいただくようなことも将来考えられ得るということで申し上げたつもりでございますので、御理解いただきたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 神田議員の特別職の報酬審の関係での御質問でございすけれども、市長の当初の議案提案説明の中にもございましたように一月十四日に諮問いたしましたして一月二十一日答申を受けたわけでございます。全員出席のもとに全員賛同を得たという形で、額及び時期についての改定は妥当であるという答申を受けたわけでございます。

過去の例といたしまして、否決あるいは修正の例があったかどうかという質問でございましたけれども、これにつきましてははともにごさいませんでした。以上。

○教育長（安田豊作君） 近隣の市町村の入園料及び保育料の、こ

こに五十五年度の例がありますが、鴨川市は千二百円、富山町が千円、鋸南町八百円、三芳村千円、白浜、千倉、丸山、和田がとも千五百円、天津小湊千円という近隣は非常に低額の料金になっております。

県下の状況を見ますと、君津市の八千二百円を最高に大体四千元、五千円というのが大多数の市でございす。

○民生部長（鈴木 力君） し尿の収集にあたりましては、保全公社におきまして毎月各地域を分けまして作業計画を立てておりまして、それに基づきまして収集をやっておりますわけでございます。臨時に要請されましてくみ取りを行うというケースはきわめて少ないわけでございます。

特に、大雨が降りまして便槽に雨水が入った、そういう場合におきまして電話で要請がございまして、それによって臨時的にやっておりますわけでございます。ほとんど大多数が収集計画に基づいて収集を行っているわけでございます。

それから、なご便槽に雨水が入るといふようなことにつきましては、中にはそういう関係もあるようでございすけれども、これから努めて改善をしていただくようお願いしたいというふうに考えておる次第でございす。

○一番（神田守隆君） 市長の二回目、三回目の加算金というお話は、誤解のないようにというような御答弁で、そういう意味というところで理解はさせてもらいますけれども、従量制になるといふことで大変そうした危惧を——現在の時点から心配いたしますので、この点についても万全を期してもらいたいと思ひます。

市長さん、いま体制がかなり整備されたと言っているわけです

けれども、やはり朝夷だ、鋤南だというところでは、電話で取ってくれという注文に応じてくみ取りに行くというのが基本的な考え方よりですか、そういうことになりますと計画収集と違いますが大変混乱をもたらすわけです。そういう点で、これまで計画収集の体制を確立する上で人頭制というのが大変大きな役割を果たしてきた、それがはずれるということと十分対策——計画収集というものについて市民の理解や協力を得ないといけないことじゃなからうかというふうに思うわけです。

まして、雨水が入って、とたんにとんでもない料金が請求されることになる、よけい市民の理解が得られない、トラブルということになっていくと思うんです。

そういうわけで、十分この問題について市民の協力を訴えるという意味で、四月からの実施というのはむずかしいという判断を持っているんですが、そのへんで市長は時期的な検討の問題、実施段階の問題として、まだ早いんじゃないかなからうかというふうに思うんですけれども、自信を持ってやられるのかどうか。

また、やった場合に、すぐに雨が降ってということ、そうすると便槽の修理をしなくちゃいかぬということも出てくるわけです。その場合に、いきなり高い料金を請求されても困るわけですから、そういう点でこれからの弾力的な運用の問題もあると思いますけれども、そうした点での考え方はあるのかなのかお聞かせいただきたいと思います。

○市長（半澤良一君） し尿くみ取り料の従量制移行を、四月一日は無理だから延ばしたらどうかという御質問でございますけれども、切りかえに備えまして保全公社のほうで、各家庭で収集のた

びに、ここ数カ月、本年度に入りましてからPRをしてまいりましたので、大体スムーズに移行できるものと確信をしておりますので、四月一日から実施いたしたいと思えます。

○一番（神田守隆君） 幼稚園の問題ですけれども、安房郡内の中さっきのお話でどこも安いということで、市長さんのお話からいけばどこの市町村でも市の財源を大変持ち出ししているということになると思うんです。交付税の基準どおりということからすれば大変安いわけですから、しかしこのように各町村それなりの財源の中で交付税の基準云々ということにとられずに、独自の立場からこりした安い料金というもので幼稚園教育の推進を図っているわけですから、大変館山も見習うべきではないかと思えます。

特に、幼稚園の場合には、私立の幼稚園との関連があらうかと思えます。料金の問題はそうしたことの兼ね合いも考えなければならぬので一概には考えられない、館山や鴨川のようにほとんど公立の幼稚園の体制ができているところはそうないわけですから。そうした点から見ると、館山、安房郡というのは義務制に近い体制を公立でつくっているわけです。そういう点では先進的なモデルといってもよいわけで、それだけに料金の問題についても国の基準にとらわれずに積極的な施策を立てるべきではなからうかというふうに私は思うわけであります。

そうした点で、市長さんの交付税算定の基準云々ということについてはどうしても納得できないわけであります。

市長さんは、今年度はこういうことですけれども、交付税の算定基準ですから年々変わっていくわけですから、今後もしそういう基準を一つの柱として毎年でも変えていきたいんだ、条例の改正

を毎年でもするんだというふうなことで考えられたら大変だと思  
いますけれども、そうした点で条例の改正問題と交付税の算定、

これが連動するというようなことで考えられているのか。そうい  
うことだと市町村の独自性というものが入る余地がなくなっ  
てしまふんじゃないかと思ひます。

○市長（半澤良一君） 保育料の算定決定につきましては、やはり  
私は一つの基準が必要だろうというふうに思ひます。国の基準よ  
り少なく取れることもいけないだろうし、よけい取ることもおかし  
いんじゃないだろうか。一つの全国的な基準だと思ひますので、  
そうした基準でいただくことが妥当ではないんでしょうか。

また、昨年でございましたけれども、保育料を三千六百円に値  
上げいたしましたけれども、それについてもやはり父兄の方々の  
御意見も承りまして、大方の賛成を得られたわけでございます。  
必ずしも父兄の方を無視して決定したものでございせん。私  
は妥当な線だと思ひます。

今後、何年かには一遍ぐらひは基準そのものが改定になるかと思  
ひますけれども、やはりこれは全国的な基準として尊重してい  
くべきではないかと現在の段階では考へております。

○一番（神田守隆君） 以上で終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の質疑を終ります。

以上で通告による質疑を終りますが、通告をしない議員で御質  
疑はございませんか。

○七番（古賀礼四郎君） 一点だけお尋ねいたします。

十六号議案の職員の旅費のことでございますが、この中に市内  
旅費百円というのがあります。従来百円というのはなぜ決めてお

られたか。それと、ここ数年市内旅費は総額でどのくらい使つて  
おられるか。

私と思ひますのには、この百円というのは、市内の公務に行か  
れるときにバスを利用されるのではないかと思ひますが、市の職  
員がそういう他の官庁とかメインなバンクだとか、そういうとこ  
ろに行かれるんだらうと思ひますが、そうしますと自転車で行か  
れてもいいんじゃないが、近いところは。館山には市内にバスに  
乗って行くようなところはあまりないと思ひます、大体かたまた  
まっておりますので。もしどうしてもあちこち行く必要があるんだ  
たら公用便を一台設けたらどうか。朝九時なら九時に定期便を一  
本設けて、用のある人は乗って行って用を足して帰ってくるとい  
う公用便を設けたらどうかと思ひます。

公用自転車というのは、現在市役所にはどのくらいあるん  
ですか、お伺ひいたします。

○総務部長（石田雄一君） 旅費の関係でございしますが、市内旅費  
百円につきましては、これは現行どおりでございすけれども、  
一応基準といたしましては三時間以上の出張用務をもつての支給  
でございす。

それから、市内旅費の支給総額につきましては、いま資料を取  
り寄せておりますので、お待ちいただきたいと思ひます。

それから、自転車の各課の台数でございすけれども、これも  
いま資料を取り寄せておりますので、お待ちいただきたいと思ひ  
ます。

公用便の御質問が出たわけでございすけれども、出張の目的  
も各部、各課によりましてすべて異なりますので、その時間を合

わせましての出張は非常にむずかしいと思いますので、それについては実態的な目的によつての出張になると思います。

なお、公報等の配布につきましては、現在庶務課におきまして公用車をもつて定期的に配布してゐるわけでございます。

○七番（古賀礼四郎君） 目的別でいゝんなところに公便がぐるぐる回るわけにはいかないと思いますので、かなりの額を使つておられるんだつたら、百円ですけれども、一年間にすれば相当の額になつてゐるんだつたら、職員が出張途上とか退庁時ちょっと早く帰るとかやればこの経費は節減できるんじゃないかと思いますが、その点いかがでしょうか。

○総務部長（石田雄一君） ケースバイケースによつては、ただいまお話のとおり職員に臨機によつた対応ということも可能であるわけでございますけれども、現実にはやはりそういったこともやっております。

それから、市内旅費の支給総額でございますけれども、年間三千七百万程度になると思います。——ただいま申し上げました三千七百万の数字につきましては、旅費の総額でございますして、これにつきましては申しわけございませんが、市内、市外の区分けが出ておりませんので……。

○七番（古賀礼四郎君） けれども、市内の旅費に幾ら使つてゐるのかわかるわけですね。今年度とは言いません。五十三年度、五十四年度……。

○総務部長（石田雄一君） 旅費の支給内訳でございますけれども、過去の作業の中の、種分けがしてございませんで……。このような御質問を踏まえて、今後一応データ的には出しておきたいと思ひま

す。

○七番（古賀礼四郎君） 非常にルーズだと思ひます。ここに挙げてこられて、額も書いてあるのに、幾ら使つてあるのかわからないんでは困ると思ひます。至急そういうような資料をつくられて、説明できるようにお願いしたいと思ひます。

以上で終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 七番議員の質疑を終わりますが、ほかに御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

#### 委員 会 付 託

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となつております議案第三号乃至議案第二十五号の各議案は、お手元に配布してあります議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時四十四分 休 憩

午後 一時 一分 再 開

○議長（五十嵐 昇君） 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。

#### 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第四、議案第二十六号乃至議案第二十八号昭和五十五年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

## 質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、すでに通告してございます教点につきまして御質問いたしたいと思っています。

質問の内容は、議案説明資料によって御質問申し上げます。

ページ数は二九ページの松岡地区は場整備事業であります。特に私は場整備につきましては大切な事業でございますので進めていただきたいと思います。この説明欄を見ますと、本事業計画区域内には弥生式の土器が点在していることが明らかになって、そして文化財保護法の規定によりまして行政指導があり、県教育庁に照会したところ、工事着工前に遺跡の発掘調査を行って、その結果を記録保存し、報告するようという指示があったというように説明されております。

この指示に基づきまして調査を行ったために本工事が遅れたということになっているわけでございますが、私はこの遺跡の発掘調査についてお尋ねをしたいわけでございます。一つは、調査はどのように行われたかということでございます。二番目としては、その結果の記録保存はどのようにしてこれから行われるのでしょうか。この二点に基いて文化財保護という立場からお尋ねしたいと思っております。

次に、三〇ページに地方バス路線維持費補助金が載っております。

す。これは第二種の生活路線、第三種の生活路線、この二種の生活路線におきましてのおの四本、二本というように赤字路線を確保して、住民の生活の福祉を確保するという点で補助金が出されております。

この補助金の内容につきまして、おそらくバス路線が赤字であるので補助するということになっておりますが、こういった形の補助をする場合、赤字の規模としてどの程度の赤字に対して何%の補助をすべきかという具体的な説明を求めるわけであり

ます。

その次に、同じ三〇ページの次の下欄でございますが、奨学資金の繰出金がございます。この奨学資金の繰出金に關しましては、寄附金による収入の増によったためということで説明がありますが、どのような性質の寄附金であったか説明を求めます。

奨学資金の貸付制度は大切な目的があつてつくられているわけでございますので、効率的に運用してもらいたいと思いますが、この基金につきまして、基金の規模、あるいはどの程度まで基金を用意されるおつもりがあるか等々細部にわたって説明を求めます。

次に、三四ページでございますが、商工費の中で中小企業の融資保証料補給金、そして中小企業の融資利子補給金ということで、減額が載っております。説明によりますと、融資の申し込みが少なかったということでございますが、現在の低成長時代を反映して設備投資等々が減ってきているという情勢が推測されますけれども、私が特にお聞きしたい点は、こうした保証料の補給金の減額は、県の保証協会が融資の保証をしても、現実的には市中銀行



の決裁により融資がなされないというような場合があるのではな  
いかというようなことが考えられますので、ここで質問している  
わけでございます。この中小企業の融資制度の現状と合わせて御  
説明をいただきたいと思います。

次に、三五ページの館山駅周辺市街地整備調査委託料につきま  
してでございます。これは減額が出ておりますが、委託料の減額  
ということとは委託料が実際当初計画したより安かったというよう  
なことであるかと推定されます。調査の事業を縮小したというふ  
うには考えられませんので、予定をしましたよりも調査料が安か  
ったということですが、この点につきましてはこの事業を委託し  
た会社は何社であり、どこの会社か。そしてその会社の資本金等  
を御答弁願いたいと思います。

館山駅周辺市街地の整備というのには、大変私も注目している事  
業であります。館山駅周辺というのには、館山駅にあり立った人の  
第一印象でもあり、館山市を象徴する、館山の顔というべき地域  
であります。そこにおり立った人は、館山駅周辺の整備をされた、  
自転車公害、車公害の少ない近代的な道路整備、あるいは設備の  
整った駅舎、あるいは一歩町にあれば合理的に配置をされた商店  
街、一歩海のほうにあり立てば自然を生かした公園、そして海と  
いうふうに、館山駅周辺は館山の文化の水準をあらわす地域であ  
ると思いますし、非常に大事な事業であると私は思いますので、  
ただいま御質問申し上げました事柄に關しましての説明を求める  
ものでございます。

次に、その下の城山公園用地購入費の残額の減でございます。  
その減の理由について説明を求めます。

また、次の下の放送センター用地購入費が出ておりますが、こ  
れはいまの放送センター事業との関連は、どのような関連がある  
用地を購入しようとしているのか。

現在の放送センターの役割というものは、当初の放送センタ  
ーの役割からかなり変化をしております。当初予定されました  
ケーブルによって各学校に視聴覚教育として有線テレビをつけて  
教育の均衡化を図るという当初の目的から、いまはケーブルはは  
ずされ、そして業務内容がはなはだ異なってきたと思えます。  
ですから、私はこの放送センター用地の購入費とからめまして、  
今後の放送センターの運用につきまして、このままの運用でいい  
のか、あるいはどのような方法が考えられるかという点につきま  
してお尋ねをするものであります。

それから、三四ページでございますが、北条小学校の北側の道  
路用地購入費というのをいま質問から落としましたが、この用地  
の購入の必要性、目的、使用について具体的に御説明を求めます。  
以上、私の質問でございますが、御答弁によりまして、また再  
質問いたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたしま  
す。

第一点は、松岡地区埋蔵文化財の調査結果についての御質問で  
ございますが、松岡地区の土地改良事業については、工事前文化  
財保護法による行政指導に基づきまして、昭和五十五年十一月十  
四日から十一月二十六日までの十三日間にわたって同地区の発掘  
調査を行いました。その結果、出土遺物については、その東北にこ

ございます標高八〇・四メートルの浅間山の山ろくに展開いたします  
巴川の旧川岸段丘上の遺物が長年の風雨や地変によって流され、  
堆積されたもので、いわゆる再積遺跡と推定されるわけでございます。

出土いたしました遺物は、弥生時代後期のものを中心として縄  
文時代後期及び古墳時代のものでございまして、弥生の土器とし  
ては、たかつき、かめを中心によく出土いたしました。また、そ  
の時代のものと思像される鹿の角でつくったと思われるもり先が  
発見されました。さらに、古墳時代については鉢等、また縄文時  
代につきましてはすべて破片で多量に出土をいたしました。

現在、その経過及び記録を整理いたしまして、報告書の作成中  
でございます。

次に、バス補助金に関する御質問でございますけれども、地方  
バス路線につきましては、そこに住む人々にとりましては必要不  
可決なものでございますが、輸送人員の減少等によりましてバス  
事業経営が困難になっている現状でありますので、その運行を維  
持し、地域住民の福祉を確保するための補助金制度が国、県、市  
町村を通じて持たれているわけでございます。

補助対象となりますバス路線は、経常収益が経常経費に満たな  
い路線で、平均乗車密度が五人以上十五人未満、一日の運行回数  
が十回未満のものを第二種生活路線と申します。また、経常収益  
が経常経費の四分の三未満の場合に、国、県、市町村がそれぞれ  
八分の一を限度としまして補助をするものでございます。

第三種生活路線は、経常収益が経常経費に満たない路線で、平  
均乗車密度が五人未満の場合に国、県がそれぞれ四分の一、市町

村が二分の一を補助しようとする制度でございます。

本市におきましては、五十一年度から館山市地方バス路線維持  
費補助金交付要綱に基づきまして補助金を交付しております。本  
年度は、二種路線として、館山駅前から富山町の平群車庫及び荒  
川、丸山町の細田及び川谷行きの四路線について二百三万一千六  
百五十円、三種路線として、館山駅前から富浦町の大津、三芳村  
の太田行きの二路線について三百二十四万八千四百四十七円、計五  
百二十七万九千七百九十七円の補助金を交付しようとするもので  
あります。

奨学資金の寄附でございますが、当初二十万円を見込んでいま  
したところ、百三十二万四千円程度になる見込みでございますの  
で、百十二万四千円の補正を計上いたしましたわけでございます。

寄附金の内訳は、吉本 寛さんという方から五十一万円、野口  
秀代さんという方から二十五万円、鈴木 一さんという方から十  
万円、そのほか二十八名の方々から御寄附をいただいたものでご  
ざいます。

その基金はどの程度までというお話でございますが、これは制  
限はございませんので、基金が多くなればなるほど多くの方が恩  
典に浴するわけでございますので、今後とも善意の寄附は喜んで  
いただくつもりであります。

次に、中小企業融資の申し込みの減った理由についてのお尋ね  
でございますが、これにはいろいろ理由もございすけれども、  
一つは経済情勢の変化ということが大きな問題だろうと思ひます。  
高度成長から安定成長への経済転換という中で、経営者の方々が  
全般的に設備投資等を、あるいは経営の拡大等を手控えたという

ことも理由であろうかと思ひます。また、一方金利の引き上げもございまして、公定歩合が数次にわたりまして改定がございしましたので、そうしたことがやはり投資を手控えさせたということも理由だと思ひます。そうした理由によりまして減っているものと思ひます。

いろいろ信用保証料や融資利子等についての補てん、補給をしているわけでございすけれども、しかし貸し出す相手は市中銀行でございすので、やはり市中銀行の日ごろの預金具合いだとか、その信用度といったものが多少は影響をして、必ずしもすべての申し込み者の御要望に充てられない場合もあろうかとは考えます。館山駅周辺の整備調査委託料は減っておりますけれども、御指摘のように競争入札によつた結果の執行残でございすますが、指名競争入札は六社を指名して行ひまして、日本技術開発株式会社が落札をいたしましたものでございす。

城山公園用地の問題でございすますが、城山公園用地については国庫補助事業として千八百万円、県費補助といたしまして五千五百万円、合計で七千三百万円を計上いたしまして用地買収を進めてきたわけでございすますが、国庫補助対象として一千五百六十万四千二百四十三円——補助の基本額は一千五百万円でございすますが、県費補助対象事業として五千六百六十二万六千九百二十一円——この補助基本額は五千万円でございまして、合計六千七百二十三万一千六百六十四円——この補助基本額は六千五百万円でございすますが、そういうことになりましたので、五百七十六万八千円の残額を生じたわけでございす。

国及び県の補助のワクに沿ひまして用地買収を行った結果出た

残であります。

こういうようなことから、一部の土地については市の開発公社によつて買い取つておきまして、翌年度以降において国及び県の補助金を得て開発公社から買い受ける予定でございす。

放送センターの現在のあり方についての御質問でございすますが、放送センターは市内の学校、社会教育の学習や活動に必要な教材資料、教育機器を提供しているわけでございす。

現在、生涯学習を全市的な立場から推進するため、教材として十六ミリ映画三百六十本、八ミリ映画三百九十一本、録画教材七十六本等を供給しているわけでございす。また、リーダー養成に力を入れてまして、十六ミリ映写機の操作のできるものは、すでに市内で三百三十名に達しているわけでございす。

今後の方向といたしまして、学校及び生涯学習の要求に応じた教材、機器の整備並びにそれらを利用した学習のできる指導者の養成に努力してまいりたいと考えております。

北条小学校用地の購入の御質問でございすますが、北条小学校の建設にあたりまして、その用地の取得は市開発公社に委託したところでございすすけれども、この取得用地内にございしました市道は、事業区域の外周に移しまして、周辺への付けかえ道路とすべく昭和四十四年市開発公社へ合わせ委託していたところでございすますが、今回これを市開発公社から購入しようとするものでございす。

以上、答弁を終ります。

〇二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただきまして、御答弁の中で納得のできたところもありますし、二、三御質問申し上げ

たいものもございますので、再質問をいたしたいと思います。

はじめの、松岡地区から出ました文化財でございますが、御説明によりますと、予想よりもかなり多くのものが出土されたように承るわけでございますが、この事業はもととほ場事業をやっているうちに文化財の発掘ということになったわけでございます。いままで当市としましてあまり文化財保護という観点から、特に遺跡を出土するという観点からの事業はあまり聞き及んでいなかったわけでございますので、文化財保護という、そういった遺跡を出土するというような事業が少なかったんですが、これに對してこういった事柄が現実的に行なってきたことを踏まえまして、これからまた何かの事業のときに出てくるんではないか。あるいはこういった対策も考えておかなければいけないではないか。文化財保護という立場から、このへんは今後の対策としてはどのようにお考えになりますか。

それから、これに関連いたしまして、文化財とまで言えない水準の、いわゆる民族文化財の資料につきまして、これらは年々時代が変わるとともにだんだんそういった文化財資料が少なくなってきたというわけでございますので、こういった資料を通じて記録をしたり、われわれの先祖がどのような生活をしてきたかということを知る上で、大変学術的な意味あるいは教育的な意味があると思います。こうした文化財保護法に入らない民族文化財の保護という点から御要望申し上げたいと思うんですが、これらは積極的に市民にも呼びかけて収集すべきである、記録をとっておくべきであるというように私は思うわけですが、この件に関しましてどのように進められてまいりますか御答弁いたしたいと思います。

それから、バス路線に關しましては了承いたしました。

また、奨学資金の繰出金——基金についても了承いたしました。それから、商工費の、いわゆる保証料と利息の補給でございますが、保証をする、補給をする利息のパーセントは公定歩合もかなり強い影響をもってくるわけでございますけれども、これはどういうふうになっていきますか、運営上、利率が上がったり下がったり、どういう時点でやっているのかお知らせ願いたいと思います。いわゆる補給する利息の利率の変化でございます。

それから、ただいまの御答弁では、各市中銀行、貸し出しをする銀行の多少の影響はあるかもしれないという答弁ですが、私は現実的に市中銀行、貸し出し窓口の意見がそのほとんどであるというようにいままで考えておりました。いくら保証協会が保証しても、ともかく市中銀行で承知しなければ全くとまらない。これは多少の影響ではなくて絶対性があつた。だから、保証協会の保証というのは非常に力がないというように私はいままでずっと感じてきたわけでございます。このへんの見解の相違があると思いますが、今回はその公定歩合と補給する利息の關係だけにとどめておきたいと思ひますので、そのへんの答弁をいたしたいと思います。

それから、次の問題でございますが、館山駅周辺の市街地の調査に關しまして、御答弁によりますと、六社入札をしまして、日本技術開発株式会社を落札をしたということでございます。この会社は資本金どの程度の会社だったんでしょうか。大事な調査を委託するのでございますので、より優れた、陣容の整った、実績のある会社に委託をすべきではないかと考えるわけでございます。

それが単に入札時の金額だけではなくて、いわゆるその会社の内容、力、能力、機能、そういったものも含めて検討すべきだろうと私は考えております。この会社の資本金の額、そしてどの程度の従業員のいる会社であるか、わかったらお知らせ願いたいと思います。

それから、この調査の目指す目的と事業の内容があまり明確ではございませんので、どのような調査を行って、どのようなものを目指しているのか、もう少し事業の内容、目的というものを、明らかにその輪郭をさせていただきたいと思うわけでございます。それから、城山公園の用地の残につきましては了承いたしました。

それから、放送センターの用地の購入でございますが、この件につきましても了承しましたが、事業内容につきましては、ただいま教育関係の生涯教育に關しましてさまざまな事業を進めているというように御答弁がございましたが、私は放送センターの将来を考えてみまして、あれだけの大きな機能の整ったセンターでございますので、広域的な見地から安房郡市の教育に貢献するような、そういった広い立場からセンターを活用できないかと思うわけでございますので、これらは将来の検討課題でございましょうけれども、その点につきましましてどのように考えられますか御答弁願いたいと思います。

それから、北条小学校の北側の道路につきましましてでございますが、公社から市のほうに移ってきているわけでございますけれども、公社で買い上げた額と市で買い上げる額の差額をお示し願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君）　まず、第一番目に松岡遺跡の調査から発展いたしまして、文化財保護についての貴重な意見いただきました。ありがとうございます。

文化財を保護するということについては、いま第一におっしゃった埋蔵文化財といわれる地面の中に埋まっている文化財をどうして保護するか、これは埋まっているわけで、どこに埋まっているかわからないというのが現状でございます。そういうことで、千葉県のデータがありますけれども、昭和四十五年に三千三百くらいしかわかっていなかったのが五十二年には一万一千九百というように約四倍近くそういう場所が見つかってきております。したがって現在でもそういう遺跡がまだまだふえていくんだというような状況の中でございます。

したがって、それに対してどう対処していくかというと、第一番が松岡遺跡のようにその地域を整備事業によって掘りかえしていくんだという、要するに遺跡を破壊するおそれのある場所は発掘して調査する。地面に埋まっているものは埋まったまま保存していく、これは一番安全な保存の方法なんです、現在では。

そういう考え方で、たまたま松岡地区を水田利用再編成事業として整備するという事業が行われるので、その場所が上を目で見た限りにおいて、いろいろの遺物が畑の上に出ていたというようなこと、掘れば遺跡があるだろうということで発掘した、調査の結果たくさんさんの遺物が、埋蔵文化財が出てきた、こういうことでございます。

したがって、発掘したものは今後調査し、整備して報告書をまとめていく、こういうことで一つの保護する活動が一応終結した

わけてございます。こんなことで進めていくというのが埋蔵文化財の一つの保存方法でございます。

第二に、民族文化財の保護について、もう少し積極的にやらないかということでございます。これについては、学校の子供を通じて家庭にそういう文化財があるかないかを調査いたしまして、それで何人か民族文化財があるというような手がかりを得まして、それをもとに調査し、その保存、あるいは今度博物館ができるわけでございますが、そういうところに展示するかなんかについての検討はいまやっている最中でございます。

なお、そういうもので収集してもいいんだというものについては、旧四中の校舎を一棟残してあります。そこに収集も進めております。

そういうことで、御指摘いただきました民族文化財の収集保存についてもできるだけ努力は進めている、こういう段階でございます。なお、御指摘いただいた点については、鋭意努力していきたいと考えております。

それから、少し飛びますが、放送センター用地購入にからみまして、放送センターの活動についてもっと安房郡市、広域的な活動はできないかということでございます。これについても教育放送センター、いわば視聴覚教育センターということでほかでは言っておりますが、これは安房郡市でも鋸南地区、朝夷地区、鴨川とそれぞれ持っているわけで、その間で有無相通ずるといいますか、貸し借りをしております。

なお、県にはそういったセンターが教育庁内にございますので、それからも当センターは一カ月単位にフィルム、その他たくさん

借り出しているというようなことで、いわば全県的に、あるいは郡市内の活動をしております。これはまだ十分とは言えないと思いますが、まずそういうことで広域で活動をしていこうということでございます。

以上。

○経済部長（山田俊康君） 利子補給の関係でございますが、公定歩合に連動して動くかということでございますけれども、公定歩合に連動して動いておりません。

現在の館山市の利子補給は、運転資金につきましては限度額二百万円、二年以内について一％の補給、設備資金につきましては三百万円、三年間に限って二％の利子補給ということで行っております。保証料は一％、全額でございます。

それから、都市開発の関係で、日本技術開発株式会社の資本金でございますけれども、一億一千万円です。職員数三百三十名、千葉県内で手がけました事業は、市原市の都市施設整備計画、あるいは成田の東口の土地区画整備事業計画などを手がけております。

それから、調査の目的、内容でございますけれども、目的はひと口に言いますと、市街地の再開発に必要なものを調べるといふことになろうかと思えます。木造の老朽家屋等非常に低い建築物が密集して、しかも整備を要するような幹線道路がある、その現況調査を行って、その区域の整備をするために必要な調査を行う。そのためには市街地再開発事業がいいのか、あるいは土地区画整理事業がいいのか、事業手法の検討等も当然これらの調査によって行ふこととなります。当然事業の実施上の問題点の究明という

ことも合わせて行うということになるわけでございます。

調査の内容ということでございますが、業務内容、今回のものといしましては広域的な条件調査、市街地の環境評価とか実態調査、整備課題の設定、当然実現方策の検討までも含めていろいろと調査をしていただく。当然前提条件等を整備していただくことも入ってまいりますのでございます。

○市長公室長（汐崎政光君） 北条小学校北側道路用地の開発公社におきまして買収しました額でございますが、四十四年、三千三百二十四平米につきまして二百五十七万八千二百八十五円で買収しております。今回買収しようといします額が二千五百四十四万円でございますが、その差額につきましては、開発公社におきまして五十五年度備補装等の工事を千六百七十九万実施しております。それから、その他の利子等の諸経費、これが五百八、九十万の額が計算されておりまして、これらをトータルいたしまして今回購入しようとしている額になっております。

○二〇番（石井武敏君） 初めの文化財保護に關しましてですが、現在の文化財保護団体というのは館山には幾つありますか。どこでこういったことを検討なさっていますか。

それから、ほ場事業とのからみでございますが、文化財を発掘した松岡地区の諸経費というのはほ場整備事業から出ているものなんでしょう。あるいは発掘費用というものはどういうところから出ているものなんでしょう。

それから、民族文化財の保護につきましては、学校の生徒ばかりでは不十分でありまして、私たちの民族文化の資料というものは自分たちの手で、全市民的な責任といえますか、そういった全

市民的な立場において呼びかけていく内容であろうと思います。たとえば町内会を通して配布物をして収集してもいいでしょうし、いろんな方法ができると思えます。今後の検討材料としてぜひとも進めていただきたいことを強く要望いたします。

それから、商工費の補給される利子でございますが、これは公定歩合の引き上げ、引き下げの変化と係りあいをやはり持たないといけないんじゃないでしょうか。このへんは今後検討の余地がありますか、どうですか、お願いいたしたいと思います。

その他につきましては、了承いたしました。

○教育長（安田豊作君） 文化財保護について市内の団体という文化財保護協会という団体がありますけれども、この調査そのものは教育委員会が担当しております。

保護について、こうした場合に、事業を起こしてそこに文化財がある場合に、調査しなければいけないということについては、事業主体が調査するということが、今回もそういうふうな形で行いました。

それから、民族文化財のことについては、御指摘のように市民運動として集めるというような考え方については、私も非常にありがたく、そういうことで進めたいと思いますが、ただ、いま考えている点は、よそでそういうことで集めた場合に、秩序だてないと混乱しちゃうということ、そういうことで検討させていただきたいわけでございます。

○経済部長（山田俊康君） 発掘費用につきましては、補助対象外で、事業主負担——館山市が負担して実施いたしました。

公定歩合との連動の關係でございますけれども、公定歩合の上

げ下げに、県内各市でも運動しておりませんので、そういうところから館山市も今後各市の状況等踏まえて検討してまいりたい、  
こういうふうに考えます。

○二〇番（石井武敏君） 質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） すでに通告してあります諸点について御質問を申し上げます。

議案の第二十六号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算についてであります。

私の質問は議案書の各ページによって質問をさせていただきます。

まず、一八ページでございます。歳入であります。第一三款の寄附金が七百六十二万四千円増額ということで補正がされているわけでございます。この内容についての御説明をお願いしたいと思います。

次に、第一七款の市債でございますが、五千六百二十万円の増額補正ということでございます。ここで私が質問したいことは、市債の増額、こういうものは行く行くは市財政の硬直化ということになってきはないか、こういう懸念を持つわけであります。一般質問の中でも、毎年度ごとの市債の発行限度額云々との話はされておりまして、少し長期的な面で見えた場合にどうなるのか。五年ないし十年間、こうしたような目で見た場合、当面する市政の課題からさまざまな事業が考えられるわけです。これ

をそれぞれの年度に張りつけていき、各年度の財政規模と起債額を見積もり、そして各年の償還予定額、こうしたものを考えていく必要があるかと思うわけであります。各年度の起債の額とその年度の予算額に対してというばかりでなく、将来の返済ということからも当然制約を受けることになるかと思ひます。財政は気がついてみたら借金で首が回らないということとは避けなければならぬと思うわけであります。こうした点から市の財政運営について長期の大まかな見通しというものがあつてしかるべきと思ひます。こうした財政の計画はあるのかどうか。あれば、それは何年までのものか御説明願いたいと思ひます。

次に、二二ページであります。地方バス路線の維持費の補助金関係でございます。増額補正で地方バスの路線維持費補助金五百二十八万円でございます。先ほど来説明をされておりますが、少々違う点から御質問していきたいと思ひます。

この財源としては、五百二十八万すべて一般財源からまかなうとされているわけであります。先ほどのバスの路線にいたしましても、館山市からそれぞれ三芳村、あるいは富山町等と各市町村にわたつてバスは運行しているわけであります。そうした実情をみた場合に、各市町村との補助金の負担等なかなか問題があるかと思ひわけで、一般財源だけで——この財源問題についてどういうふうになっているのかということ、私が仄聞するところでは特別交付税としてこの財源については国がみておるんだ、こういうふうなお話を聞いておるわけです。この財源について、市の財源から繰り出す分、それと特別交付税というその中でみられている分は、これはどのようになっているのかお聞かせ願ひたい



と思うわけであります。

次に、二五ページであります。児童福祉費について九百七十九万二千円の減額補正ということになっております。特に児童措置委託料が四百七十万円の減額で、説明書によりますと措置児童数の減少によるとされているわけであります。具体的にこれが何名から何名に減ったのかお聞かせ願いたいと思います。

同様に、児童手当も三百二十三万六千円の減額補正——対象世帯数の減によるとされていきますが、何名から何名に減ったのかお聞かせ願いたいと思います。

生活保護事業につきましても、五千四百二十一万二千円という多額の減額補正ということになっているわけでございますが、この内訳を見ますと、いわゆる生活扶助費以下それぞれ説明があるわけであります。これについても対象人員の減少があるのかどうか。それは具体的に何名から何名に減っているのかお聞かせ願いたいと思うわけであります。

次に、二八ページの農免道路の整備事業委託料についてであります。千九百八十五万五千円の減額補正をされているわけでございます。内容を見ますと、説明書によりますと、実施設計内容の変更のためというふうにあるわけでありますが、実施設計内容がどう変更されたのか御説明を願いたいと思います。

次に、三〇ページ一番上の道路用地購入費二千五百四十四万円、これは北条小学校の北側道路用地とのことでありますが、先ほど来質問をされておりますので違う面から御質問いたします。

これは開発公社が所有している土地であります。それを市が引き受けるということであるから、当然あの道路について

の開通の見通しについて、どのような見通しを持っておられるのかお聞かせください。

次に、三一ページ防火水槽建設工事等請負費の減額でございます。四百四十一万二千円の減額がされておるわけでございますが、これも説明書によりますと、諸般の事情で設置不可能になったということであります。諸般の事情とはどういうことなのか御説明願いたいと思います。

そして、また市内で防火水槽設置の必要があると思われるところは、現在は何カ所あるというふうに考えておられるのかお示し願いたいと思います。

次に、三四ページであります。船形小学校の校舎の防音改築工事請負費というところで一千二百六万円の減額補正というところでございますが、この理由は単価の減によるということでございます。単価の減とはどういうことなのか、具体的に御説明願いたいと思うわけであります。

次に、三四ページの中学校費の中の校舎等改善工事請負費二百四十一万三千円の減額の補正についてでございます。説明書によりますと、西岬中学校の通学路舗装工事延期によるものとされていますが、西岬中学校のどの通学路のことで、なぜ延期にされたのか御説明を願いたいと思います。

次に、議案第二十八号の館山市水道事業特別会計補正予算であります。五四ページの資本的支出の中で補正予算額四千四百三十三万九千円の減額の補正でございます。説明書によりますと、山本浄水場用地を買収するため予算化したが、地主側の理由により買収できなかったとのことであります。そもそも用地買収目的は

何であったのか。そしてこのことによって今後どう対処されるのかお答え願いたいと思います。

以上、答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

歳入第一三款の寄附金でございますが、本年度の那古小学校の屋内運動場改築に際しまして東京都から六百五十万円の申し入れがございました。このほかに、奨学金の問題で石井武敏議員にお答えをいたしましたように、百十二万四千円程度の奨学金の寄附が見込まれますので、これを加えたものでございます。

市債についての、償還についての長期的な見通しについて御質問でございますが、地方債は年度間の財政調整機能を有しておりまして、負担の公平を図る見地から地方債の活用は望ましいものといえるわけであります。特に、本市のように一般財源収入の少ない団体が適切な行政水準を確保するためには、地方債の有効な活用が必要でございます。しかし地方債の元利償還は将来に大きな財政負担となっております。現在、新たに地方債を発行するにあたりましては適正規模の地方債を発行する配慮が必要でございます。

地方債の後年度の財政運営に及ぼす影響を知るためには、まず公債比率の把握が必要でございます。公債比率は公債費の財政負担の状況をあらわすものでございまして、この比率が高くなる場合においては将来の財政負担が拘束される度合いが強いということであり、また財政硬直化の一因となるものであります。昭和五十年以降、地方公共団体の絶対的な財源不足対策といたしまして、国は地方交付税の増強とともに地方債の増発措置が図られて

あるところでございまして、一般的にはその公債比率は高まっているわけでございます。

適正な公債比率の水準につきましては、必ずしも明確な基準はございませんが、全国的な傾向、類似団体の状況及び地方債の許可の制限を受ける基準の二〇％等を一応の目安として、本市における比率の動向に注意する必要があると考えております。

公債比率は、当該団体のその年度の元利償還金から地方交付税によって財源措置されているものを除いた純然たる一般財源によって負担する額の標準財政規模に対する割合でございまして、この比率が本市の場合、五十三年度六・六％、五十四年度六・九％、五十五年度九・五％と低い水準となっております。今後の見通しについては国の地方財政対策、特に地方税、地方交付税及び地方債計画に影響されるところが大きく、的確な数値を把握することが困難でございますけれども、国が作成した五十五年度ベースの地方財政収支試算を参考に試算した場合、五十六年度から六十年度までの公債比率は年々増加するものと思われ、ピークでも一五％台で推移するものと思われ、これより低くおさえた場合、投資的経費の水準の低下を招くおそれもありますので、現在七億円の財政調整基金があり、今年度の繰越金の積み立ても見込まれますので、この基金を有効適切に充当するとともに、物価の上昇率、長期金利の状況を考慮しながら長期計画の年度間の調整を図り、投資的経費の水準の低下を防ぐとともに、公債比率の上昇をおさえ、財政硬直化を招かないように努めてまいりたいと考えております。

次に、地方バス路線の補助金の特別交付税への算入の問題であ

ります。確かにこの補助金は特別交付税積算の根拠にはなっておりませんが、しかし御案内のように特別交付税というのは交付税全体の内から九四〇を普通交付税として交付し、残りの六〇を特別交付税として交付するわけでございますが、その年のいろんな状況によって変わってくるものでございまして、特に本年度のように特別の冷害があったり、積雪があったりしますと、そうした対策に大半をとられまして、一般のそうした災害のないところに対する交付税というものは総額が減ってまいりますので、この五十七万ほどの補助金を出したから、それがすべて特別交付税として交付されるというものではございません。そういう意味で、このうちの程度が特別交付税に見込まれ、特別交付税の中に含まれて交付されるかということについては、はっきりしたことはわからないわけでございます。

第三款民生費の児童福祉費、生活保護費の減につきましては、こまかい数字でございまして、具体的に民生部長からお答えを申し上げます。

第六款農林水産業費の農免道路の委託料の減でございしますが、一千九百八十五万五千円を減額するわけでございますが、その理由は本年度新規事業としての採択が分割採択となりました、当初の事業費七千四百万円が五千万円となりました、したがって委託料としての現計予算六千四百二十六万六千円が四千四百四十一万一千円となりましたので、その差額の一千万八千五百五十円を減額するものでございます。

なお、減額されました事業費につきましては、五十六年度以降に予算配分がある見込みであります。

北条小学校の道路の、買い上げます道路の開通見込みでございしますが、当初予定は、市道九号線へつながる予定でございましたが、いろんな事情がございまして、地主の事情がありまして開通できないのでありますので、開通できないまま——そのままだにしておくこともできませんので、開発公社からでき上がった分を買い上げたわけでございまして、今後の見通し——今後とも開通に努力はいたしますが、見通しについてははっきりした見通しは立っておりません。

次に、九款消防費の防火水槽の減額でございしますが、これは建設を予定してありました土地が道路敷のため、工事中付近住民が交通不能となるというようなことで、住民サイドの納得が得られなかったことが主な理由でございします。この予算を組みます段階では地元の住民が納得いたしましたので計上したわけでございしますが、いざ実施という段階になりましたので、たまたま申し上げましたように住民サイドからの了承が得られなかったということでございます。せっかく予算を組みましたものでございしますから、どこか必要なところへということも考えましたが、この交渉が長引きまして、補助金、起債等の申請の時期を失してしまいました。そういうこともありまして、また年度内に工事が完了する見通しが立ちませんので、減額をいたすわけでございます。

なお、今後の計画でございしますが、現有貯水槽が二百五十一基ございまして、消防水利の基準等によりますと充足率は五〇〇程度でございしますので、今後年次計画により年五基ないし六基の建設を図りまして、充足率を高めていきたいというふうに考えております。

教育費の小学校費の減でございますが、これは船形小学校の防音工事の請負費でございますが、この予算を積算いたします場合に、防衛庁からの指示がございまして、五十四年度の防衛庁の示します単価に五割アップをして計上しなさいということでございますので、そのような方法で積算をいたしましたわけでございますけれども、防衛庁の五十五年度の基準単価が五十四年度に比べまして五割ほどは上がりませんでしたので、結果的に一千二百二十六万円の減額となったわけでございます。

中学校費の西岬中学校にかかります減でございますが、当初加賀名停留所から西岬中学に通ずる道路と早物から西岬中に通ずる道路舗装を計画いたしましたわけでございますけれども、各部落との話し合いの中でいろいろな意見を聞きましたところ、必ずしもこの道路を通学路として舗装することに賛成ではないようでございまして、今後西岬地区の皆さん方と話し合いを進める中で検討を加えたい、そういうことで減額をすることにいたしましたわけでございます。

それから、水道事業会計の減でございますが、これは山本浄水場の用地購入費を減額いたしましたわけでございますけれども、当初地主さんからその土地を買ってもらいたいという申し入れがございましたので、予算化をいたしましたわけでございますが、具体的な用地買収交渉に入りましたところ、地主さんであります会社から会社内のいろいろの都合で買ってもらわなくてもよろしいということになりましたので、従来どおり借用してまいりたいと考えたわけでございます。そういう意味で減額をいたしましたわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○民生部長（鈴木 力君） 二五ページの三款民生費のうち、二目児童措置費でございますが、一一節の措置委託料におきまして四百七十万円の減額につきましての理由でございますけれども、私立保育園におきまして、児童措置委託した場合におきまして委託料を支払うわけでございますが、年度当初におきまして四千百六十四人を見込んだわけでございますが、三千八百七十七人という見込みでございます。したがって、金額におきまして当初一億二千七百七十二万五千円を見込んだわけでございますが、それが一億二千三百二十五万五千円、これが決算で見込んだ数字でございます。

それから、なお二〇節の扶助費の児童手当の三百二十三万六千円の減額の理由でございますが、これにつきましては義務教育終了前の児童で三人以上の場合、三人目以降の児童に対して支給するわけでございます。当初対象児童といたしまして予定いたしましたものが一万三千七百十六名でございますが、これが最終的には一万三千六百十三名となる見込みでございますので減額補正をいたす次第でございます。

それから、四目の生活保護費のうち、二〇節の生活扶助費につきましては、一千二百六十二万八千円を減額するわけでございますが、生活保護の人員の減ということでございますが、年度当初に見込みましたものが実数三百八十人でございますが、最終的には三百五十七名になったということでございますが、人員の減によるものでございまして、なおかつ、保護基準におきまして当初アップを見込んだわけでございますが、これが見込んだより下

回ったということによります補正でございます。

以下、住宅扶助費、あるいは教育扶助費、医療扶助費につきましても、人員あるいは単価の減におきましての減額補正でございます。

○一番（神田守隆君） 寄附金につきましては了承いたします。

将来の市債の負担の問題ですが、やはり将来の財政運営上大変いろいろな問題を持っていることですので、一点だけ聞きましておきたいと思うんですけれども、五十六年から六十年、年々純然たる公債比率がふえる傾向になっている。私どもは国の地方財政政策自身に問題があるということをや々指摘しておるわけですが、昨今の国会での論戦などを見ましても大変危惧する事態になりかねないというのがいまの状況だろうと思うんです。そういう中で五十年から六十年年々ふえていくという中で、ピークでも一五〇段階というかなりこれ自身は高い比率と思うわけでございます。この比率についての評価、これ自身どうすべきかということも今後論議をなくちゃならぬことと思うんですけれども、もう一点この一五〇段階の高いピークになる時期については、いつの時期というふうに考えているのか。その一点をお答え願いたいと思います。

それと、歳出についてであります。地方バス路線の維持費、特別交付税の積算上わからないということなんです。確かにわからない仕組みになっていることを理解するわけですけれども、わからないと言っても、この半分ぐらいは大体見られているんだろとか、あるいは三分の一だとか、大ざっぱの数字でも全くわからないということなのか。わからないと言っても、こまかい数字ま

でわからないということも含めて、もし大ざっぱな数字でもあるならば、そこらの数字をお聞かせ願いたいと思います。

それから、民生費の問題ですけれども、人数についてこまかくお話を聞いたんですけれども、私は注文をつけておきたいんですが、説明資料、議案の内容があまり変わらないような、同じような、議案に書いてあることが資料に書いてあるということで、具体的に減額の内容がよくわからないということで、説明書には人数の問題なんかも具体的に書いてもらわなければ困るということもありまして、わざわざ聞いたわけなんですけれども、その点一つ要望しておきたいと思うんです。

私立保育園が減ってくるという問題——保育園の措置の人数、予算に対してだいぶ減ったわけですね。私は、一つその問題として、私立の保育園ですけれども、保育料なんか見ますと、公立の保育園に比べて、市が条例で決めているわけですけれども、実際高くなっているわけです。六十人保育、百人保育ということ、私立の保育園は六十人保育だからということと高くなって、だけれども、実際に見てみますと、公立の保育園のほうがたとえ建屋については完備しているというようにあるわけです。私立のほうではやはり建屋については完備していない、また遊び場の面積についても狭いところがあったりする、こういうような問題を持っているわけです。私立のほうが預ける親の目から見ると設備面で悪いんじゃないか。それにもかかわらず高いというのはやはり問題じゃないかというふうに思うわけです。この点についてどういふふうに考えられるか。そういうことをお聞かせ願いたいと思うわけです。

それから、生活保護基準の問題ですが、保護の基準が当初見込んだより上がらなかった、それが人員の減少につながった、こういうことだとすると、やはり生活保護施策としては十分今後考えていかなければならぬじゃないか。国の基準ですけれども、生活の保護基準を受ける方が減るということは、私は悪いことじゃない、それぞれ、たとえいままで病気で仕事にもつけない人が仕事について、そういう人がたくさん出たから減ったんだということなら結構だと思ふんです。だけれども、そういうことじゃなくて、国の基準が低いために保護が受けられなくなったんだということでは、大変残念なことではないかと思ひますけれども、その点について市としては何か考えがあるのか。

それから、農免道路の整備委託料の問題ですけれども、説明資料には、補助決定額の変更という話は確かにわかりましたが、同時にそれに伴う実施設計内容が変更になったというお話なんですけれども、設計内容が変わったというお話、いまの答弁でなかったんですけれども、説明資料に間違いがあったというふうに理解してよろしいですか。

それから、防火水槽の建設工事の問題ですけれども、現状二百五十一基、五〇％という充当率ということで、大変寒けのするような思いなわけです。特に館山は西風が強い、強い風が吹きますと丸焼けになりかねないという立地もあるわけです。それだけに防火体制の整備を十分留意していかなければならぬだろうと思ふわけです。そういう中で館山の一基が減額補正ということとは、いろいろあるかと思ふんですけれども、やはりこれはまずかったと思ふんです。もっとほしいところへもたくさんあると思ふんで

す。少しでも早くこういう整備を進めていくということでは、館山のほうでできないという見通しの中では、やはりほかでもっと別に、館山に次いで急いでやらなければならぬところもあるかと思ふんです。それだけにそういうことも含めて防火水槽の設置の充当率を高めるということで御努力をお願いしたいというふうに思ひます。

次に、船形小学校の防音改築の問題ですが、いまの説明を聞いても理解できないところがあるんですけれども、これはこの間二月の議会で荒井建設に二億二百万、こういうことで落札をして、その承認を与えた工事であろうかと思ふんですが、それが防衛庁の単価の見積もりが云々ということと減額するんだ、しかしながら実際には二月に契約をしてすでに決まっているのではないでしようか。この時点ですでにわかつていた数字なのかという点ですね。

それと、次が三四ページの中学校校費の関係ですが、住民のほうからもう一度検討しなおしてもらいたい、必ずしも賛成ではないという御意見だったというところでございますから、それはそれで了解します。

ところで、校舎等営繕工事請負費というのは――予算ですね、中学校の校舎等営繕工事ということで、通学路の整備をやる予算のようでございますけれども、いま中学校では新しく三中をつくったり、一中も移転したりということと、こうしたところでは大変な砂ぼこりのことが問題になっております。西風がひと風吹くと洗たく物がだめになるとか、家の中までほこりまみれになってしまうという大変被害を聞いておるわけでありまして、この予算と

いうのは、おそらくそういうことにも十分使える、そういうことに使わなければならぬ予算項目ではなからうかと思うわけですが、一中や三中の付近のいろんなほこりの問題については、何らかの対策を考えられておるのかお聞かせ願いたいと思います。水道関係については、借地だったというようなお話ですのでわかりました。この問題については了解いたします。

○総務部長（石田雄一君） 神田議員の最初の公債比率の動向の關係でございませけれども、全国的に公債比率の上昇というのは一般的傾向でございまして、特に市町村につきましては、住民生活に直接關係します事業投資というものが多いいということも反映していると思うわけですが、館山市の場合、現在三カ年の根幹事業がございまして、ローリング方式によって進められているわけですが、五十六年から五十八年の三カ年の動向を踏まえましても、この間におきましてはほぼ一三兆台であろうかと思うんですが、五十九年が一四兆台が現在予想されております。

以上でございませ。

○市長公室長（汐崎政光君） 地方バス路線の維持費に關します補助金の特別交付税の措置でございませけれども、金額については特別交付税いろんな項目がありながら明示されていないというのが現状でございませ。

明示されていないということに對しまして、私もいろいろ県にも問い合わせたわけですが、県も私どもの質問に對しまして、市町村からこのような要望があるんだけれども、自治省はこれをどのように考えて從來この補助金を扱ってきたか、

こういった問い合わせをしたそうでございませ。その結果、自治省の回答は、特別交付税に關する省令第五条第三号「その他財政需要又は財政収入が過大又は過少であること」の中で処置している、今後も特別市町村に交付する——この補助金をです——交付するという項目を設けず、このまゝいまの状態をもって処置し続ける、このような回答だそうです。

○民生部長（鈴木力君） 私立保育園の場合、公立保育園と比較いたしまして設備の面においても悪いんじゃないか、あるいはまた反面保育料が高いんじゃないかというお尋ねでございませけれども、これにつきましてはすべて公立と私立同じでございませ、私立保育園におきましては県が監督、指導してゐるわけですが、特設設備等の内容が悪いということはないわけでございます。

五十五年度の公立と私立の保育園の経費の内訳を見ますと、一カ月一人当たりの収入におきまして、私立の場合におきましては、平均でございませが、二万七千六百五十三円、公立の場合におきましては三万五千十円ということでございます。参考でございませけれども、申し添えておきます。

それから、生活保護の關係でございませけれども、国の保護基準の単価が低いために対象人員が減少するんじゃないかというお尋ねでございませけれども、これにつきましては、国におきまして社会保障制度の中でいろいろ検討し決められたものでございませ……。

○經濟部長（山田俊康君） 農免道路の設計変更の關係でございませが、当初見込んでおりましたもの、予算の配分が変わってまい

りまして、それが当然設計内容にも及んでおります。今回の場合には、山を切り開く部分がございまして、山頂部分のカット部分がございまして、そのカット部分で変更がございまして。主たるものは、用地買収と補償を優先的に処理した残り、カット部分の土量を翌年度回しということで変更されております。切り土関係では当初四万三千九百二十四立米を積算いたしましたものを、変更では一万四千七百六十七立米、変更による減が一万九千五百五十七立米、捨て土関係でも変更による減が一万八千二百三十七立米、盛り土関係で九百二十立米ほど当初とは変更されております。

○教育長（安田豊作君） 船形小学校防音改築工事請負費の補正でございまして、二月の臨時議会でわかつていなかったかというんですが、わかっておりました。それを今回減額補正をお願いしよう、こういうことでございます。

それから、西岬中学校の営繕工事請負費の減額でございまして、おっしゃるとおり当初予算は四百三十一万道路整備ということで議会の承認を得ておりました。そのうち、西岬中学校のプールのフェンスの修理、西岬中学校の校庭の整備、それから国旗掲揚塔の設置等に使わしていただいた残りを今回補正しようということでございます。

それが、砂ぼこり対策その他に使えないかということでございますが、これは大変だと思っておりますが、水かけをするとか、芝を植えるとかという方法、一部フェンスをつくりましたけれども、決定的な防砂対策というのがつかめませんので、今後またそういう方向では対策を立てていきたいと思っておりますけれども、今回はそういうことで補正させていただきたいと思っております。

以上。

○一番（神田守隆君） 市債の問題については、五十六年から五十九年、六十年までの具体的な数字をいただきまして、私どもとしてもこういう問題については検討していきたいと思っております。

特別交付税についてですけれども、「わからない」、自治省のお話を伺いましたけれども、バス生活路線の維持というのは大変重要なことだと思えます。その施策というのは大変貴重だと思えますけれども、私が思うのは、市町村でやっていくということについてはこの事業というのははたしてどうかという、むしろ県レベルでの施策として図ったりすることのほうが、あるいは広域的な立場からの方が——なかなか具体的な運用を見ますと矛盾点が出てくるのではないだろうかという気がするわけで、そういうことから国の財源措置がどうであったかということもあえて聞いたわけですけれども、いまのお答えで具体的にはわからぬという答えは答えとして、了解いたします。

それから、私立保育園の問題ですけれども、部長からのお答えは何か間違えているのではないかと思います。私立の保育園、館山の保育料徴収条例だと、中央保育園と純真保育園、それと船形ですか、百人の保育——百人保育しているところは安くなっています。ところが定員六十人の保育園——これは公立と私立それですけれども、それに比べて六十人保育のほうは高くなっているわけです。徴収の基準見ていただければわかると思います。料金を取るときは表自身が区別されているわけです。六十人である、百人であるということで料金の差をつけることの合理性というのが、預けるほうから見ると矛盾があるんじゃないか。六十人保育



のように私立、たとえば子育て保育園、あるいは豊房保育園、位置づけられているわけですから、そういう面からいきますと、住民のほうからみると、公立は安いけれども私立は高いじゃないか、こういうような話になるわけです。私が言っているのはそういうことです。それから、そういう点では同じではないわけです。住民の目から見ても、公正だという点からみれば同じにするなり、それから私立が高いわけですから、たとえば豊房だとか、子育て保育園は、それなりに住民の目から納得できるものでなければならぬんじゃないか、こういうことです。

それから、道路問題は了解いたしました。

砂ぼこりの問題、これは対策が、なかなかどうこうするということとは、これといった手が決まらぬということですが、やはり一中にしろ三中にしろ、付近の住民は学校であればこそということで、皆さん協力をしてがまんしてくれているところだと思っております。けれども、それにしても非常に限界を越えるような砂ぼこり、全くもうもうたるもので、あれじゃひどいなという状態です。それから、積極的にこうした問題についての検討を急いでいたして、いまできる手だてをぜひとも打っていただきたいというよりなことを要望いたします。

私立保育園の問題で、先ほどの答弁では誤解があるのではなからうかということで、どのようにお考えであるか、検討いただけるかどうかということをお伺いしたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 現在におきまして、保育料の料金の定め方につきましては、適正に基準を定めておるわけでございます。なお、私立、公立間の単価につきましては、今後とも検討いた

したいと思います。

○一番（神田守隆君） 以上で終了します。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の質疑を終ります。

以上で通告者による質疑を終りますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。

○九番（松下正己君） 大変皆さまお疲れのようでございます。簡単にさせていただきますので、答弁のほうも明確によろしく願っています。

説明資料三五ページ、非常備消防訓練費用弁償についてですが、二百十三万九千円の増でございます。そこで御質問いたします。

各部で年平均操法訓練を何回くらい行っているかということ。それから、それに伴う費用弁償はどのくらいしているかということ。それをまずお伺いしたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） ただいま資料を取り寄せてお答え申し上げます。

○議長（五十嵐 昇君） 暫時休憩いたします。

午後二時四十三分 休憩

午後二時五十八分 再開

○議長（五十嵐 昇君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○民生部長（鈴木 力君） 本年度消防団の訓練出勤回数ですけれども、年間延べ千四十六回を見込んでおります。これに對しまして二十八部ございますので、一部平均三十七回の出勤回数でございます。

○九番（松下正己君） 出勤回数じゃなくて、訓練回数じゃないですか。そうですね。

そうすると、昨年よりもずいぶん操法訓練の回数が多くなってきたということは、どのように理解したらよいのか。その点についての理由をお話し願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 特に、消防団におきましては、消防団員の資質並びに消防技術上のいわゆる向上を図るために、操法訓練を重点的に強化していただく、こういう趣旨でございまして、なお、最近におきましても火災件数というものが減少しておりまして、そういうこともございまして、訓練に励んでいただくというところで、このようにいたしました次第でございまして。

○九番（松下正己君） 確かに年々防火に対する施策の徹底と地域住民の対応により、家屋火災が少なくなった事実はあることに結構なことだと思えます。消防行政指導のたまものとこの点については敬意を表します。そして、市長としては、消防車、ホース等の負担金をゼロにし、団員報酬も近隣市町村に見合う額の——私は額までとは言いません。その手前まで確かにやっていただいております。

そこで、非常備消防団員というのは、市民の財産を守るために自分の家業をうち捨てて消火作業、いろいろな従事しておりますが、それで操法訓練の——火事が少なくなって、現場が少なくなったということで、操法訓練の必要性が高くなってきたという点を踏まえまして、操法訓練費というのをより当初予算の時点において組まなければいけないではないか、私はこういうふうに考えますが、その点市長はどのようにお考えでしょうか。

○市長（半澤良一君） 御要望にこたえて、増額を図っております。○九番（松下正己君） どうもありがとうございます。了解いたしました。

ました。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で九番議員の質疑を終わります。ほかの議員諸君で御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終ります。

#### 委員 会 付 託

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となっております議案第二十六号乃至議案第二十八号昭和五十五年度館山市一般会計及び特別会計補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

#### 延 会 午後三時四分延会

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明三月十四日及び十五日は議案調査のため休会、次会は三月十六日午前十時開会とし、その議事は昭和五十六年度各会計予算の審議といたします。

この際申し上げます。昭和五十六年度各会計予算の質疑通告の締め切り日は三月十四日正午まででありますので申し添えます。

○本日の会議に付した事件

一、議案第十一号乃至議案第二十八号